集義外書

劄簡二

二

曾913
門口
甲 18
卷 2

脫論一

一病友問王代中と頼朝少事之民の天下を治ると。名ある執権の人ことを病人あるに醫者のさとすに。病人ありて思れるやうに。猶おもの〻記してあるの事ハいく。云ふし学問あるとも筆とるの人ハ。多ハ佛学より出るゆ是ハ他のうへハ。をよく経法のいまん。仏多の重宝る事のを書ること。まこと天下第一のすぐれてよろしき教ゆへ。賢哲已下漢ハ日本国中にハ用のあれるとくそうさ。ゆへのハ皆佛者ゆへ。神道も儒道も仏法の流を地神を乃教をひろ〻ハ仏ありてこそあるとも。

亡くより辛くきうすゝ。儒書ハ文字ばかりおぼえ
佛のゝハばくそれ。ゑむさの理学とてまことの
ありがたきハ儒仏ともに初のまゝ
とゝろを初めりくまかくし何ようう
教訓ある佛をうれて出家して言く
いうこと。仏経ハおもて仏ゑの
のまゝでり和く出てるとゝろ儒ゑ
わくもあるきをれはまくわ
放よ聡明なるものハ仏ゑ
ことのも仏法ばかりあり。和く
よりをなうを年ハ程子朱よの理学ひろまりわき
く聡明なるものハ儒よ和くもあり。仏法ハ深ゑ

放よれ仏法よ心服するものの心根よ感ずるゑあり法也
と称ゑことのハ一日をゝぬ乃ち人も人相をそこほくの
なり仏の善悪報よあらわれ
心あるものハ重人乃至を和く
有ハゝとそこも心服をれ古ハ宗
一教よ。屠く聡明の人ことに。乃と和くまゝ
義守恭時年。今ハ世よまゝ一様心底或
して賢人なる一一同意敬ちるゑハ
あり。儒ゑにまれ人ゑさハ仏ゑの
ひ。云ゝ仏者よ毎敬ちる者ともあまてゝも毎よ法よ
ひありてあるゑとり出てるゑ毎敬ちり。そまても千人ハ
人なり無くく拉多者の中よハをくくよれものゑ

へきれば今こゝに云ふ乃ち善よハ
ざる迄を引あくまで後世のこと
仁をうたがふるやあるべき
一朋友間くに云ふ或云地獄極楽
あれど爾くハいつさる善言をも
るもの〻きかぬ事とも
ーてゆあの世をとふらはん
てなれくいつく悪をもとゝし
利も有くいつく悪仏さ
我等かゝのごとくハ地獄ハたれ
ふもの〻ごとくハ小悪、也人
ハせ〻ま

悪ろくもせ成く。何よりもかなら
と仏をうたがふ。ゆハざるもの
くごとく善人乃ゆハ古来
あれまるものより治生
妖女乗乃ゆハさうひまそ。
きゝ〻ハ。ゞ水よ及をゆ。
福ろくうえるものゝ。悪人
ろへうふい。絶よハ云事
ものたるふ。をうそくゆ
ろへ亡ぼるうをたゞく〻ハ人の
とのよハ何をの祟給ん。
とくひそれそ。是ゝの

ありたよの和くまを罪を懺一
一明友同くえさをうて解へ
一ということをくをおさいう
なう悪うそくハせよくいよ
今時の仏弟子ハ善をえをあり人
乃ち天神一神乃神明あり。理にをれ大悟まる魔
そも嬢うを天地よさ仏
こ悪を和ふハ人ふの霊
それハ人よ善人多く国家天下よくおさありくハ
摂ち地獄のをうをもつせ悪をれてうつよくハ
せうくいひるうく悪のなるものそのつのふの神明
よくいふおあのくをう

ふ一念をもてひいたんや悪人といえ救く。悪をみとへ
きやおりるの基しきなり。ふまるおに教んよりハ教さる
はしかれとも。ふまつをけ悪うれ悪をとそこふ。
これく。私のをあり。これ
又今時後生のをえをえく。人の善をえをいとハ。仏弟子
悪ハ。歌を歌とえくいのく。義をふるとえ。西我乃教
これをせ一歌といえ。阿蘭陀を。財宝と海よりも
こあるうふり。歌といえく一向よしさるかたり。うふ義
をえ。義をけをハ私のをえ。ふ義をれの善歌を
し。富生を歌とのひ。義をれの仕候をハ富生をきと
え。これく仏よりもくハよ止根乃人なり。下根の人といえ。元来
ハ歌悪のをすあり。戒を守ふ。善悪をえとハ仏菩薩

乃上なりて欲悪なりし身をうけたる人。妙法蓮華経。いかなる
する人。阿弥陀佛とよぶ時に。欲悪を安じ。恥の心なし。若元
とこれはあるまじや。是故よく後生の利益をしる悪心を去
道なり。涅よと化とも編まする神明も。仏説によりて地獄
に落なりて。欲のきこしゆるをあまりたる。是をしらん故ら心に
おほ[illegible]ましいたくいつたき。七寂[illegible]渾沌死とる成へし。
昔文盲なる男の。六十計なく被まるか。あそして死なんと近
き比。其子老して云。何宗の上人和尚なるも。御のゝみ次第
承信し上下。隠殺のとゝめとうけをあへしか。さりし儒学か
きる人あり。病人これを招きて云。我の世よりてのるさは貴
年も儒者云三千年小さしれ。病人云あなまうの以去乃聖
代神代ハいかなれとそや。儒者云。それハ一万年二万年とも云

数をもしれ。久しきよりなり。病人云。さてハ其久しき神代乃へ
のこともしらぬといひて死き
一心友問て曰。東坡ハ經傳によく達して。義を服してよろしな
よ。程子朱子も甚経をよめるへし。あの身よ纔入。男色あり
まじひかせし事ハいかに　答て云。仁者ハ必ず勇あり。勇者
ハ必ずしも仁あらじといへり。されば文才と仏法とも又恵
なしかよきこともあり。仏法明なるもの文理をきの川なう
通なり。文才あるものハかならしも仏法よれにあらし。東坡
ハ文才に秀たるものなる人よ。文乃力わく經義をも通せ
しなり。志るとても実ハ我慢にて。人欲のさうひたる者なり
きこの故よ甚身の仏法よをひくハ。仏し口しさんへて。又仏よ
入しまハ。ひかしれしも仏の中よしひあゆる事なり。ハわし仏根

邪偽なるものあり。眞邪の取捨ハ學者の勉強にあり。今ハ眞
乃門より出るなり。妄作法ハいかなる
邪説なるハ。世のきこゆるなり。善惡
ともにそれぞれ何ものとてもなく
をもるゝ。一旦ときゝなくなるべし。
佛法ハ本是たる法なく。愚人のために
とくなり。世ごとにかゝる賢の性理文章をいくかさねる
放ごとなるべし　何佛ハ善惡をいく
なくなるものなり　云根本ハ善惡ともに
しの教なる人はなし。よく眞人多く其
門より。眞をまもりぬこのものさへ
ものもさのこたれなり。眞をつゝしまハ人のこゝろあらば

外書卷之四　統論一

く。善ももちろん一切をハ仏よへなり。今時日本にくまし
くらひなり
一心友問云佛者ハ空をとなへ善報ハそなはるものと
とかれ。又ハ天地法湯の間にそなへて。
あるべきや。法をおせ。こゝろ　答云。
理より自然とかく。大小の天地法湯則理なり。其ゆくさき
こゝろえうるをもつてそ。空のそこをうたがふる放ごと法湯起
出の見もを。もし我友禅者と同云。座禅して悟道
や。禅者云。我日本にくまし。仏事何うやく
のくそうを生ずと。静慮のこれなり。
我友云これまでの。我もそうしてつまらぬ。今ハかゝるをいそれてを。善ふる

一。老耳の教なり。三には仏教なり。今のやまよは此
一。のごとくなり。しかも其の功は。年よりおとり。
まことよりのちなり。年よりおとるゆゑは。
老子ふくに。仏菩薩をもとうとあれとも。大儒等がしくはくしい
もとうとあれとも。魂をもとめらりふるひの如くしい
とつのみ。ゆゑは。此こと仏とからうあるべきのごとし。
教主と仏を大聖と乱称せしかいえる。これなり。
しかるに。此の方仏乃至ここまで。学をとるべく
するものは。ただ孔丘あるのみ。乱一理をとるべき者は。
一。朋友同じく云。三教と空海と書よる北嶽の仙人我もはべしに思
ひく書よる。人と教とをとるべき者は。
答くに。

我等が今此のごとく乱一者あり。答よは海のごとくひろく書よる
なりかを。もと地学ふかく仙人をとるべき人は。坊をまもるべく
を信をとる石程なり。三教と仏とを第一深一ろく探て書仏をとれ
それら海よりもふかく中に書仏をとれらろく奥よりもふかく
仏者此等をもれ仏をハよるべきやうにして出三教は大方小さこれを其
出る海此文をもてもとより乱仏をハよるべきの如くなり
るものは。耳目小仏をとるべきの如くなり。
ハ。第一ようとよろ仏教ハ第一ようとよろ仏教ハ第一ようとよろ仏者
ろ教なり。あるひとなる石教ハ仏者ろ教なり。あるひとなる者ハようとよろ仏者
ろ八心根の異なる者あるべきゆゑに。同教
おとり其こくなるゆゑ。答釈迦よりろ
ろ。仏仏をとるゆゑ。空海の学教ろ
ろ。仏仏をとるゆゑ。空海の学教ろ

一、文筆を以て

一服友同く云。彩色の圖ハ我狀をくわけ
實事まことのハ生まゝ〳〵を
ものあり。天生乃人ハ人の形
生ずるてくれかもあり
物色の見もあるべき。人仏画
乃境界とうーいてそう
理をそれとつまる人倫よ
あるとつまを法氣のりを
そうなり　善く云ふて
けとハ畫數そくを物色を
倫理ありて。彩理乃照合う

日本にても。万人に一人ハ。天竺人に似たる者もあり。鉄色大。
あさ黒中のよりなれど。手足とも長くハ。猫足仏まそいハ動り
まど。後徳乃ましひとくよする故に。御く沈魂深魄の変あ也。
同志異ハ太陽の生あり國なる故に。人の言貌異なりとも。御
うをあられぬし。日本さてハ三韓。琉球なくてそよけ也。忽
ち人なくハ。天竺人かとあやしむこてアアシなり　云東より
西よりも精粗あり。日本三韓ハ東夷の精円あり。忽そハ小
狄よつききる血気風。東よあつて日本にハもしというべし。
小狄なり。西戎のおしき中なりとも又精なくし。日本三韓よ
ハ及ぶべからず。戎乃精ハ。忽そ人にハ勝るべし。千年まくく経
来せし商人の地続ハ下國なり
一 朋友問。大和西洛よすく明かなるとのハ。死して安の云業

法乃现世後生に似たる事との轉り　云佛法の修らひの
ことお盛のよりてこするひあり。佛法を言らむ法以あれ古人
乃語よ。天道義を常とすに生まれし。義と安するう死を
いれしと云て。死生ハ昼夜なるなり。昼ハ務くの工作をつく
夜くお子と寝る。夜ハ寝く休む乃理なる故よいひ存
なり。荒寨の民ハ。死生をさうて昼夜のことし何のくさの
ひともあり。しかるを人倫に明らかにして異端のまよひなすれ
故なり。荒寨の民ハ皆善人なるしかり。若人
にしくまさとひなるとのにハ。後生のいつわりとはいひくるよ
いらさんやうしなし。鬼神乃将利生とれ。おうすへき相も
なし。荒寨の中代よ新色を出しけるハ一人れ家しきりひとを
のくなるべし。どうつく其狂病をいやさんべきのとなり。たと

見れバよのハ生死といふもの二つにきれ。人の身ハ心の中より
生れ出でたるハ。魚の水の中に生じたるがごとし。魚の生あるも
なきも水よりきれ。魚ハ死するも水よ水滅きれ死生なし。
水ハ生の水なり。其ごとく。此身ハ生死あるも心ハ常住なるハ。
なり。春夏秋冬則我心なり。心の中より此身の生ずるハ。
大虚の青天より雲の一むら生ずるがごとし。死するハ其
雲の消ゆるがごとし。身死すれバ此形に付たる情欲乃心ハ
なくなるなり。氣ハ今も天地とひとつなり。天より人のうまれても
おく今よりひろがりなり。形ハ今も地上にあり。死すれバ土
中に入るとも。去てひとつによる理なり。氣ハ虚空へ入る
のごとし。身ハ虚空へ入てもそのごとし。氣の本体よ。身もうまれてお
なくなり。死ハ氣と形とがはなれてなりたるハ地に本

なくなりたるなり。あつまれバ生といはるゝのみ。氣のあつまると
て。人の形をなしたる時ハ教あるなり。教の後ち跡なく死し散
なり。晝一日くれてゆけハ夜のねざめハまりて寝る。なる
と同じ。教より前のとき異なるなし。長きつゞけれバ。死を
以ハ死しなるを敎なり。何の別事もなきなり。釈氏でいふ
いたる者をいはく仏といひ。多く此人を迷わせたる
ものなり。此言にあ候よりて生じ帰するハ死
と涅槃ともいへとも心無くハ却死せざるものに。生て帰の
なるものハ死しても安ぜさるなり。生死と無疑く同
じくなく何か無く死を恐るゝなり
一 心友問。寂滅乃教の言をきくに大学よりもこく實あるものぞ
と言れしといふ。不ハ何ぞや　答て云。其言語乃妙にして。

見解のそこよりうつてでし。徐氏の言ふ所非なり。易にときたるが如く。
らして。氣ひきくハ。遠くまで實を紀すの意乃ひきくと云ハ。はよ
いわゆる。悟道のよに經者こゝまで。そこ元佐の利欲とも方便
のまゝもいくねけ出すのこと。同前敬齋ハ悟よあるこゝや　云其ハ
知。釈迦ハ。悟道ハ一日也。出家てハ居ざるの。造化の秘理と云ぱ
ゝ。物也こゝ元放よ。
前註と云ぱ。
天下世界と作すの。徐氏の註ハ。悟道こする示ハ。悟しの
根より出て。根なの秘理こゝ。
ゆゑいやあるべきぎ。ましの
けく。造化と物也こゝ也ハ。
一向徐氏の言ふ所非なり。易にときたるが如く。曆律をこゝまく
云ふこの意ー　云根なの。
そもにこりうこまりてあるの
くこてゐるいでし。色と亜不こ。そ不こ。二川まあくあり。一日
もまの更ゐ徐氏と所して。出家ふるこゝのハ。法せ物也こゝ元
ゐるをきこゝ。ひ生ぜうもーの新しけり。形あるものハ
一度滅。第不周土。悉皆成道けり。是故曰。仏ハ云の
称けり
一心支同仁こ。兄弟こゝろしくハ。ゐしゐ物ゐりけり。仁と
にしのくハ。人倫ふるこゝ元放よ。兄弟こゝ元
非こいのくハ。人倫ふるこゝ元放よ。

釈氏の慈悲といふハ。己今に施をこらし世をにくむる事ハ。人を
あはれむるをもつて也。慈悲とす。これなとハ菩薩の勝行
とするを云也。仁ハ天地の物を生育し給ふ根本の生
理なり。人に有てハ心の徳なり。無欲無我にして万物を給
一体にす。其禍とあはれミ。能しとふてハ。其の自然乃
用たりとしらへくとはなかし。天地の法ハ。貪欲にをし。
是故に義理乃性明らかなれハ。性理乃仁をもしれ。婦人姑息
の慶あるれハ。その中出る人ハ。大君をとり共にする家中に
まハり給く。仁徳ハ国君しなりとら。我も不知。未生不死者
仏家の法にゆかりとくに仏法にまをしいて。仁く慈悲
しとは不同しやうに覚えさるなり。日本にてハ。其ありやうを
と交するなり。是なれとも日本ハ大陽の出る国にて。神人

霊なれハ仁徳のみちに明らかなる事。中国に同じ。いまた教さと
をは人なとかしらハ。みつからほと他の所にまかれるとし　同
あらハ聖人の無欲と。釈氏の無欲をくらへみれや。甚だ大に
あらへて。釈氏ハ其日蓄しれ。物を蓄へと施さるを無欲と
して。無欲とするハ仁をもらへさるものなり。又これ理をかくて気
のことをしり馬の大豆をゆとらしひく。勝にかけまハ江すく
いふて。形をとらてくたるさといく人の無欲とせんや。人乃
の無欲ハ大に異なりて。義ある事をゑくしの利を心しれ。云
義にあらさ則ち私を無きと無欲とす。さる人き義あるまハ
とりおほへき義あるまハあるまハさくいへ。
施すへき義あれハ。かくこれも。只心の義にあてさなとも無欲
とし。利にするを欲とします。これるとのよこに無欲と

歌ことごとくしるすのよしを言ふ。もし歌をつくり成すハ。歌よくつくりまなびてよくせんがためなり。

一 朋友問ふ。今時をおくり後生の人々のこゝろの多ハいかゞおもふや　答云。世俗の人々ハ。歌をつくりまなぶことをこゝろざしとせず。

一 朋友問ふ。今時をおくり後生の人々のこゝろの多ハいかゞおもふや　答云。世俗の人々ハ。歌をつくりまなぶことをこゝろざしとせず。

一 僧ある人に云。世中の出家の人ハ。なにをもとゝしてか仏縁をもとめ成仏をねがふことぞと。僧云。ねがふことハ。ねがふ心ハ有ども。まことの仏道をしらざるゆへに。ねがふ心ハ有ども。成仏をえざるなり。仏道をしらんとおもハゞ。まづ諸宗の法門をよくならひきわめて。しかるのち仏道をしるべきなり。

一 僧ある人に云。世中の出家の人ハ。なにをもとゝしてか仏縁をもとめ成仏をねがふことぞと。僧云。ねがふことハ。ねがふ心ハ有ども。まことの仏道をしらざるゆへに。ねがふ心ハ有ども。成仏をえざるなり。仏道をしらんとおもハゞ。まづ諸宗の法門をよくならひきわめて。しかるのち仏道をしるべきなり。

一 僧ある人に云。世中の出家の人ハ。なにをもとゝしてか仏縁をもとめ成仏をねがふことぞと。僧云。ねがふことハ。ねがふ心ハ有ども。まことの仏道をしらざるゆへに。ねがふ心ハ有ども。成仏をえざるなり。仏道をしらんとおもハゞ。まづ諸宗の法門をよくならひきわめて。しかるのち仏道をしるべきなり。

仏法を稀りて見んハ他力とも自力ともいふへきなり。今の仏家れ他力
ハおなしことゝして、悪人のみを救ハんといふて、皆仏にかさすく我執あり
せぬ。仏縁とむすひたらしハいふて業をかふ
うやまふとし。仏法のいふ所ハよしとせんかし。我道きを似する
るものなり。朱子学に入者、王学に志す者、儒学よりする者、各
生付の風ありて、それをもいつくしむ縁をしきりにもかし。それ乃聚
まりもいふへきなり。朱子学の者ハ朱子学に入者あつてハ徳
を学ふに志あり、おほそく者に入ても王学の者ハ王学に志し者
あらそハ好人によるとかくへて、なにハ何の生付の
ものん何の風乃ちかき者とえんおほえておもんや。三皇
五帝。三王の御代ありハけりふよれる縁のもとのみし世の大
道ともよりておるなる質なり。人のいふ所にあり。我慢なさ

きのなるハ禅にハ情といれ老ハ日蓮宗にハ、足腰なる者ハ一向宗
とおり。禍福にかゝわりみとしきたちハ天台真言とするを。
何れそと附乃人の生付かまこふを見とてしれあもハ、その
そくひおものびしらつるを知て我と君との二つすて、善悪を
弁ふの為にハ邪正乃辨へなし　儒云仏法を立てそくに
儒道の理をいふいくハ、仏縁とむすひとりくハえうく仏よ近よる
ハあるへうれ　云甚方ハ儒と仏と志す方へ、仏に近く
こへて我ハ仏に縁をしまし、縁をむすひてもしられなり。
新すに云あすら、身を任すなそ何れをもんすくそのおもくれ一二
三四又　儒云それハ此外大風の縦合乃ありとよかろく
来るしかもよあり其いかや。前にいふ事にせてむを
へたしかるのを察まてさしまハ本乃趣意なるかの云たるなを

乃歎ずるにたりず。されど又空の異名ぞ。仲通の名
とするは元丈八名利をすてよと諭しそゝのかすなり。
故に酒の人をとりこにするをあざむくなり。

集義外書卷四

集義外書巻五

脱論二

一朋友問て云。黄金白銀ハ。乾坤乃至精なりと承り候道ハ多了出す。異国へ渡し候事ハいかゞと申人あり又有を以て無きにかゆるハ常の理なり。人の為ハ文章を沢る所なれく唐の奇物を来して。衣服の用具となすとても此なり と申人あり。いつまで是にて候はん　答て云日本の四海にもそれ程といふ事ハ国土豊かにて人ゐ通明なる故へなり。近世ハ国土の実を已にしすくて人もなくなりゆくまハ山沢の金精をつくし尽くしすて。金銀銅鉄多くほり出し。異国へまて渡し。山あれ川浅く成りゆくにてもおんなし又有無をかふ為と以ゐるなりハ。人をして不叶物なり。其経なの

多くひさしかるべし。年数の程ハ。唐国とまさらずとも。政乃
のあやまりなく月年の中にてあるべし。昔より物ごとにな
く日本の事ねのをいへる時ハ。人のうへ人乃も風流あり
けりき。近代より物多きとまいりあれとも。人乃いやしく
なり給ふ人も才知のあるそれ道するより八門にさくりて。
徳と学ひ時よ用ゆてよく給まへハ。今第も世中に多くあ
るより八国土乃精と成り心中にふくむるやうに給へ
一朋友同く云拙みと今一人あ人ひとしよりの家の老しく給へ。
同役はハ家中の者よくなつき給ふ。家中のかしいつくハ主人
へのちうしもひく。切く好みまし者役ふ人も役給まへとハ
ひきそうにてよく釈しうとく給ふ何ゆゑそのよろしく独身
のやうしなる者なれて。其職分を失ふ身乃紀中しなければしく給

まし。何よしても人の釈を出来給ふべきや　蓋く云。御同役乃
人。天質寛裕温柔にしてひとへ人へ釈しぬへき器量給ふ。御家
中とらし語に六拳なり。国用軍用なふらまうせくくら
らせかなるし。才智なりかねを。釈まじと労し給りん
より八。御同役一人を釈ことさまで人べし。月給の時ともなくハ一
人の武勇と身かなく敵人をよくさその人とく御同役を脚く
まさ己し主筆のよとなハ一人我身をよくし。御よ用ふ財
用を内よ用ひかね。家人多くしてゆるさるなるべし。知ふかすき
るに給ひもや。御同役の人ハ。其度乃名代としの人ハ。その
厚恩をれる人なる代ハ。一日乃もとけ書とそのままさそれ。報礼
あるまそるいもしや。役方代わりともけするとや。其度なる君
の為と思ひてしれ念く。御同役よ。人の為ひ付とそ稀と。

我ともろともに事を欲してぜひともあれかしよ。甚兵衛を
よりうめ元のよへ。結士の親こ宮人うに及書をよ
足まへハ行乃ちあそや。許由ハ天下とさに辞して帝堯を
代宮と。天下と平治せわく。心の田舎の田とまのもり。
いそもや一国一郡の労紙人ゆゆうく。これうそのしし心
乃ぬるてバ心乃ぬようの元情をまぬるまのうんまれ徹
乃ぬもの西う。人の志よう人親この俸ことの不得
已の振舞。音信多いしのへ一のまふ公と起
してなと事ハ。玄南のほいへ多人のなもう
処うに。家人百姓多ふめうんに国来三事の
よう。ようまと云ぬめ色をもて。元情の沸りと家
しうく。例の西ちれもそ。掲多おんひとれ神く書

乃ぬを笑ものへ
一故者の多ま流言ふりて。妻(サヌ)をほろあり。親新知音こ
まに(モ)いきとうた妻して。心後人(サヌ)をうんとの
これを実く告く云。一人妻
音人妻んとの端をう
らのあそ一思そんるを恐まん。書言連。後人をうんへ、
て利をひく。妻をんう。拾ハ後人却く害方をまれあと
さんこれ人端の程をまくなり罪ふくして妻をハ熟をと
ふのよもうとへ。大弁ハ弁をひとの口。微ハ不言してもう
一。旦妻者ハ年ようう。年未仕よいう西なくして。妻ふ
ふのり憂しす。今幸ひ天下
治文学武芸ま達へ一。親新知音のま手伸くも妻者ま

よりて学ひハ。幸ありて福神也。修人ハあるよハありて福神也。
恩をふく報酬をもて可なり。何ぞあさましくんや
善悪中に湯をそゝぐのごとく。福を変して福
しよするのたり。甚しくハ貪賊憂戚ハ天道放好徳の意令
たり。其法をそゝぐ日ハ先其時あり。雲者ハ人を
おもふ人ハ時ハ南ゆくハ。茶乃往孫よこゑ。事始の
ゑをかさハ。十分よ利をひとも。今乃人情よあるへし。
ーをせーさんとするいとく。技打ーする往度者へ。一歩
中ハ。年来のま君成すとく。往業をそー罪あんう。一部
乃いうにそ多をそれ。憂と釈よ及とそのまゝひとなり
ゆふへし
一心支同剛（カウ）敬本訥（トツ）の質（ヲチ）。いとくしてたちうきや。云剛敬乃人。

道をゆふへしハ。甚勇力を用く。物欲よひうとして利害よ
座をして。本納の人素朴（ツ）遅鈍（ド）のまゝよ。をとうく時ハ。ゆふ
そせりて。已うあるをも。故よたゝり近ー
一那支同。我をれる町人よ。学ひ武士の好者をゆふ。町人乃
称ゑをあるして。学ひのあとあり　云町人の
やうにそれとくハ。市井乃利勘而已してすう。武士の称して
ととこハ。貪困と勝をゑとくひとゝ。義理のまれをしき
如ゆくいふる　云さまよハあらぬ。力よりめやうにおり
ゆふ者来ゆのごとく好。利害よおくりぬやうにおり
云是主のまゆあるして。町人の風称よ
てゝこれ町人とうて。ゆふ
らう。町人ゆく。風称を武士よ似をめうすハ町人ハ人のや

しむる者なれバ。人の下なる事をいとひ。分を過し。不
さる〳〵人のよろこんで取なるものなり。風々商ニ異な
きにしも。公乃務んハ平人よりも高し。これをもつてし
学者とは人をひきいて。相争相務の公徳を教ふなる
べし。風俗ハ商ニ居して。商を行ひぬまゝ。公ハ市井のを海
まふく義理のされまじき所ありて人を助ることも仁なら
ありといふとも。海ニも不哥持なるべし。昔人乃物信せしハ長袖
の家人ニ生付。欲もなく寡ニも足るものあり。同学して
文才もあり。其勇釈乃代より富有なりといへども不義乃
富なることを知て。あやまちなきふなりしね愆をさりて。
恥ニもゆふへきりくて往くべきやうなけれハ。妻子のをはき。
弁ぜらず。己しられざる所ぞ。古よりまれにしかるべしされ

て帰来しね。今ハ公ともに落つく。是非なく飢るすくなへ
し。今時市井のうちにハそれなる浮人あらまし。かしこき
なり。其舊友ニ富たるの二三人あり。それの家人十人
二十人ハ我家をも春のへきさものなるに。まのつきもせ
まで。つらく難義をさせ。我乃不義よをもしへよりけ富人
はこれ此商人なれバ不及是非ことなれ此学者さそえとして。
一天下の學を任しとをもいふて。知らぬ余ハいかにひたすく。古
名なきことも也としけるき　云則して今やしける富人此学
者なりけるくも今猶を出して。人をさすく深なくある
る事ハ。古る事をと云いたりし　云ることる市井の常なる
らん風俗を常あくよるなへし　云いへふでもやすそ。
為理より傳りて。縁もえんまたる者なり　云仁なく

義ありて。而義よく紀八本乃乃理よるの幸人
聖賢の書ありハまのの乃ありの

一子者向。鳳鳥八神聖乃市代よおるハ届くこの今。後乃小後世
ら民賢あるとも及ざる時仲を度く出ることの世乃ま
者。ほ義を失のく。孔をまりり動教よ。風も又徳難を
又ハてるれるる　云ことをて虚名をおもハ
幸ハいかへもおくなく乃ほうひいなほ天地よ。鮮揚も
あるこ。ゆへよ。又虚理をいまぐるひまよ風風
乃取事。乃出よ。上の徒弁重ねれ。人倫的ものを
し。風の妖怪成ハ。郷憑乃君まれるることく。それ妖
物あれく。ハつく枯おるとハ。ちの風をんてるとこ乃

民よハ後をゆるく。福をるるとのみ理也
一向弁揚ハこれも。徳ことをひく。おへてうを知ハさる
ハまおこふ賢ちる。ちくハ周のをこれ乃魚。船に乗へさる紙。
修ひよみて。燦ハひく。ハいやとハほこちちいく
云論く弁揚を告ことも。ちの徒乃論きを有く。心
也さるハ通こふ奇特あり。ちくも周乃魚ハ自然の天意なり。
王と云ふみて。其天の賜をうもをうみちり。後世乃福を求る
ふ。汲くするよの。さもをみくも。修ことも天地蒲
別のなり。虚名をぬく福を行るのなりけをハ人のいそん
平をそうさくはの云ひおく。徳と功とを準
的ます。ちをしてこの故よ。古人ハ人倫明る
らと。政刑通ちる世よ。ちくハ年乃あ年をハ。和くおやしき

まことて。まことに。まことに。
いくさと。五穀うらなく熟をと。ぱこの年をいふ。
ふ。と。世の仁民ハ。皆よりきたるものあり。
らんと。災害乃あるをハ。まだ濁世の常をゆゑ。
乃和も。成しもをれ。くのごとくのごとくなりの
のごとく直言をるるのあるをいふ。
しかん。悪人のゆゑ。
るゝ。おとゝのたち。
くしひあるとも。自己不徳乃罪をうけさるのこと。
大悪ハ。天祐の宝物とも言ふべし。
ひよくくるゝをいふ。
を起をと。功用よりて。

ふるひうごかして災害生をと。禍乱とうち見を天地人
三才一貫しるし。聖人の神乃祭の義を知るべし。天下を治
し。其聲を揚ることのごとくなり。
も。竟章のごとく乃天祐三光ちり。春秋も竟章の代もを
秋のり。万物はちりぬ。人の
へきやう。おもハるの
一心友道の行れんこと
む。勝乃初九。喪馬勿逐。自復。見悪人。无咎。
てのられる時。下位より最
起し。ふをりんと欲る
ありこと。顧く独をりと欲る時ハ。遠く往してまる者の。馬を失
く往して欲るの思ひをもるとくするこれハ。害あるをやもるとこれハ。馬を逐求されども。馬

向こうへ行こうとしたが。心に思ふ事ありて。引返して。石秀を呼ぶ。石秀。今こそ形用て。色美なる女を。金ともこれば。絶なくむくむくと。神の如き男の。何を賜くべきやとそ。ものは。人の覚弘きを。我ものと人をさけば。人行を賜らるゝ。きは。人人と交るも。さくものぞ。

三ハ尖のやうに。ろ八人とする。其志不同しの字。是君子と小人と。一卦とする。二女同居て其志不同。ろ八人とする。其志不同しの象なり。又今の如く。通行ハ世の。罪ありて。世の人も。世よりも。益ある。名あられんとそ。ものゝ。人ありても。世よりも。益ある。ものをきらふ。ものゝ。害ある。ものゝ。まゝ。ものゝ。ハ。

乃ち不動。害ありとも。其害と。ものゝ。ハ。ものゝ。ハ。

うごかずして。動しとおらんと。世人甚事を。不知。これも又今也。世人乃罪ありしが。乃その名あらんを。きらふ。ものゝ。ハ。ありしが。乃その名あらんを。きらふ。ものゝ。ハ。世よりも大不肖ある。こと一出ものゝ。ハ。是又人情を知ざる。ものゝ。ハ。ものゝ。ハ。

功あるハ。後世より。此湯餅ハ。後世の事知ざる。ものゝ。ハ。云徳ある。害ハ。いつまでも。変ずして。ハ。何ぞや　云也

後よりも。ものゝ。ハ。人乃賢知乃人をおくむ。ものゝ。ハ。人情乃。ものゝ。ハ。ものゝ。ハ。ものゝ。ハ。

まゝ。ものゝ。ハ。ものゝ。ハ。ものゝ。ハ。

ようのものゝ。ハ。ものゝ。ハ。ものゝ。ハ。

見る家員塗載鬼一車先張之弧後説之弧非匪婚媾往遇

雨則吉上九ハ睽の極に居り。上に至り。強剛にしてくらけれ
ようされバ賢知乃明なきハ。そむひく知りなり。我知に自満
しく賢者に疎まるるのみなれバ。才徳の守ある者をもうたかふ
己とそしれバとしおもへるのみにしく。兄思ひしく。家のけ
がれしきう。志つも泥を身に蒙るがごとし。阻て猜
人きなり。上に在て賢知をかくむしておもへるハ。小人是に力と
頼み猜の虚説と云説をいひしよのなり。鬼と一車に載
るしハ妄きこゝを有せずるより悪むらハ。人の妄に云ことを
云とをおもふしく正人のをも鬼とをおもひて正さきくなれ
実の疑をもおもれば、よくむへきるまぬ。先にハ弓をはり。射
んとをはまて疑もしも。後にハ弓を弛して。やうく也。陰
陽交く和するとハ、雨となる。婚媾の理なり。物極まれバ必

また衰ふるハ。変の理なり。そむきて。極まれバ。和する時の至
君子たる人ハ。一旦乃災難にあふといへども正理を守りて心をうつ
しまれバ又急するゝ人の心をも君子におもひてむつひ人となり
とをにも小人のおもふもの。彼も情のそむきて雨ふりてぬれゆき
てもむて。その雨にハそむきての言葉なりとのなり。虚説
流言ともにおもれてとおもく。おもへしく人を鬼ハ形なけれバ
車にのせるへくしれ。志ほとのとおもふと云なりし。虚説流言乃
まるしきともむかしのうすよその事多くにハ猜くハさる人
も身のうへにありてハ疑へうたるものなり。孔門の曾子ハ大
賢なり。国中に同名乃者有て人をころせしか。名の同し
きゆへに。あやまりて曾参人を殺せりと告ぐるもの有り。賢
子曾参の母。杼を投ちかけ不審して走りてとる

幸のこと、み、まく、苦悩人ありて、其時毋和をおけ拝く、
のごとをみくくして、そこいよ及ぶ、八かくのごとく、生貪の
和よおくこれて、後を修まする、ろは故の聖貪
八、後の人、きるを思おくく、後を元人八吾知
て月慢して、後なく八生のおよ、ゆるとも廣くまろうよ
きおくくいひく、後去とをおまと、吾知とやゆるて
法世のそをいるまり、いんやそしくそろよそしくと
のおのまるをや

一明友宿、仏者よ八、他の切つて、理まて、行強く、往極效
まあり、傷去よ好人ケて、云ろうまおとを
いわるみこのろいあり、ろ八傷北れ、今後のつるお八傷北れ

者の中より、み人七人ろ出るもの、百人よりこそろ傷去
好おおくおきそをくくろ西佛者千人の中、九百九
十人、後いおくく、三人ろ、ろるもの、九傷おまいおを出る
きつて、九傷おくくろ今八、千人の中に一人、まろ
人の中に二三人ケ、放よ仏去いて、好をのくおきこ
そこうあれて多好るまた、付よをみくろまと八、好そよ
をしてのまこりのろのも、成佛得脱の志おく
出家まるこのハ方億七中まて一人もまこあり、出主よハたら
うくく農工商ても、ぬくはんくく、後世乃
ろ、出家もり、まれよ、ろのおは、ろの生有あり
ら孫をぐうくへまやをれ、ゆ人よ、好を乃来ふにまろこと
これ好て、おしいまろこるみれこはるみ、ぬくといい

へつと近代の儒者も又かくのごとしむかしハ市井の中より浮世
ぬけるよ儒学しけるものや武士の中より出るものありしに
いつも笑をなれ子どもハ醫者になりけるもありしそ儒書
をよ渡世のしけるもの武ハ醫者の子孫文才あるものや醫者出家
とりわけ出生ハたんなる筋目にさもなきものなりといやしくねハ人にお
しなじみ人ハまじなりなり故に仏法儒道ハなりさうらハかりしも
さても出家ハ多き中なるにより是まで仏法の内のありぬ儒
者ハもとなけれハ儒道ふかく絶しものなりとし人に信ず
と。あそくもる事あれハ活計の為とそ心得て仏法を修行
殊勝なる者あらずハ性生根本の所ありて出離生死の志
あるゆへなりや所人ハ大方やりつるるく戦場をハとそ易き
しも唐天竺へわたりても海陸の難と志のさうやうきに不

を捨来きりて八武士の及ハさる勇ありかくらぬ行ぐ利お
ぬけしをもれたまり一時西方極楽南方無垢浄土兜率の處
をしらすへ見究乃理に輪廻たえてよそさくしに何よりて
か殊勝の修行あるべきや又一様の行者とて実ハ名を求め
利をねむ又凡無欲清浄を修らまく人は修とも僅
あり無欲のまた何より利あるゆゑをもれ振る也億万の中ふ纔
僅十人あるかなき人ハ修るもなるべし其もの実なきの者
ハ邪道遠慶より細く根ありますひわる故なり大乗乃
勇をもの出家と浮世の儒者をくらぶへハいつまて勝劣ハあ
るべくも凡俗にも行者の大欲ぞ乱行の者も紙より出きハ世間
のむ人のよと渡世たる悪人多し儒者ならハ刑罰にもほ
さるべし出家ゆへにのかくものありなかれと悪ハまさると

やうくん。事ありの住ハ傳ふ名のくるくる人れ中ほり
人道の事かし。別よ修ま事ハ。世人乃再日とおろりすへき
るあ。家をして打柏を知世孔て忠信と知られて大変
よおしみハ。其徳あくりる今。至人の学ハ平地のごし。
異端の学ハ。山れてこるしも。平地よハ及へう
そこて険阻を切てハ。日をかろう平地あて大
道を切てハ。人おろく事かし。出家ありて八当事あり。
とくきこい人ものを。けんそくハ。ろれ平人
ちうつきこしてハそろ。おしてと平地とすと
こ小村のをそくるうこ
ちるうを知る
一朋友同志行の人なきく。馬をおよりこ。ハ。事一

き強みしとうされ。ろれくの人ともちうまたをれハと
事さうるの多しく人るくにもうひてうしかる事しき
云ふのそそやうにく若号ものりいみも成る多
しかりきくもよ人ハ。若号あり。ねよ手礼のおうへの
若ともるハ仁義礼智信よりうれハなし。礼と切の八。
若の大なるものたり。事を慶号を切ることのいう安
りて千度ともくれ若号おく。神ていさむんある人事
よ武士たり。事変たり。若号ろ。事れの出へ降分
とうろくるハ心ろけの一たり人よ礼を行のくちし。
武士のこ好く其中にまの二円射ろ殿ハ祐慶
ちり。陪臣の馬よりとんてかしてまるみくる事れ円よ
ろくとも出くるをを作りてろ代せしめて

と可なり。今の風俗などハ無礼ともいふべき事多し。毎度
無礼よりなりて所度なし。ゆへよのかたへて一度此礼
多ぎたるものハ對面の度ごとに禮なれば略して指図くけ
しとなへて。欽文士佐ち敵より古礼を失ひ雅なる家
継ぐなんどうの所内一家ハ礼儀正しきをいへて。備後三次の
城主浅野因幡守殿乃幸ある人ハ。一旦の章に只佐ゞ木
あり様をかたしいへたり。五三代前ハ肩をかへてる武士
なりるかるよりかりて。かしこある八あまりなるあり。今
ハその礼節まくもの付人もまゝ也。かれとてもよの常と
成しまし八國を得るの無礼ハさのみもうしる人もあるしき
まつくしくりもすまぬ人あるべきやうなり。陪臣
をえるのごとく甚いやしいひるすハ。本史乃傲驕よりいでて

なすまじいへてまで民の末代なでにげるもあうことを附合の
物の。諸士其余民家をうつしむるもおほくおごりて乱世と
滅るよあるべ。斉の桓公の時、管仲。孔子よ辨を時之公
の次。上卿乃位をゆく礼を受るべく。管仲辞して。下
卿の位よつきたるといへて。上代ハ賢君の任代くあるも。
陪臣よハよのびを作して。諸侯庶列与なさに依も。陪臣
ハなさしきなりひ。次第よつて直臣陪臣のかたわらの礼
ことなり。今の礼を失礼なり。王者の天下の権を失ひ
しも武家乃代の長久なしきるも諸士の無礼なるゆへ
外よ依て
一心友同学棲の道ハ。人の才使を生し。民乃まもひとけ、
人君佐を不失。士民風俗あつく。天下長久の基と成る

ま〻ゝも。我朝王代乃学校の我ハもろ〳〵乃。唐のさいハあ
いろ〳〵乃ゝ。日本の国俗よりうまれ出るものゝ〳〵まるやハいろ〳〵　云和
漢古今共よ。実ハかろ〳〵敷。国俗と対なひとうて。古法
をえへらるゝ。ぞをえへらるゝ。ぞをえへらるゝうのかろ〳〵乃者へ。今日本九国
俗ハ。武を尚ふして。文をまもしたゝ文ちくて。
ハ。一日も立ゝれ乃和あまきハ。ちゐ文を用ゐく。不知乃く
今の人情をかくして。学校を有名ハ右をやゝ〳〵。武
藝ハ上ゝ成重く。十人乃ゝ
日ゝく。学ハ。紳士学校の芸術ハ
同何ゝ。常に文をするゝ。
てゐ乃新聞乃ゝ用等ハ。
上下羽織乃ゝ礼を尚ゝ。

ゝるも文なり。孔五節句。和尚を拝礼元服和をこ
死をゝゝ拝まてのゝ。文よ
八九果よ。十三四まて。ちゐ
凡せゝる。ぬ文なり。まゐ
多ーゝいゝゝも。ゝゝ
なり。ゝゝへ乃ゝ
山放よりゝ武士よハ紳書文学ハ人多ゝ
ゝゐゐ学ゝゝも。勧学乃ゝ
おゝゝへゝより布て文通ゝ
せゝる風俗ゝあり。勢多く成ゝ其邪を常ゝ日ゝ足
学校よりゝ師を立。門生乃ゝ
やゝに法を立。十人以下乃ゝ

さしも武藝の師ありて。学ぶ人一ケ月。学ぶ校日付を甚よろしからざるものあるべし。私の条令を禁ぜられ。人の家の情ふかくこれを。今日をあとへ。学校乃ち。俗陽の学の校乃至やう。武一心支向。夏后氏。五畝とうくく。一夫五十畝を受く。五畝とうくく。年貢にそけるも殷人八七十畝を受く。井田乃制あり。六百三十畝の地を畫して九區とする時も。一區七十畝ちの中を公田とし。其八家各一區。七十畝を受う。其方と俗く。公田を助耕して。其私田よ稅をとれ。なよられを助法とよ。

なく仕教へ。すなわち八ち馬会法と才一うて。学文守よみとも。甚男のち論へ。ち中適よ志人を注。別さひさ礼楽弓馬を。そうわをく。雲書文経を講なし。出られ。今の風俗とも。変とるすおろし。同学校とする。付きとも。風を。漸うあるつめむるのをおひく。弓馬法を。古方等のよう武技抜打をう論とも。甚多紀もの多さ八何そや　云県師乃ち人あいからて。拙者とち古のの中に人のあきものあるぞうきものとおさそこなあるまあり。万統一心。くいふ法とハさめく。拙者せるものまハちんるー。拙者とるものん人にはかくる事あり。父兄ふ法もの兄といふものく。拙ちは

周人ハこれを祿用ゆ。百畝まて徹となす。郷遂ハ貢法を
用ひ都鄙ハ助法を用ゆ。耕すところハ家力を同しく
作りおさむるところハ畝をはかりてとる。故にこれを徹
と云。其實ハ皆什一なり。貢法ハ十分一を以常の數
となす。助法徹法とハ九一なりといへ共廬舎と公田の中より
取る。商人ハ十四畝とる。周人ハ二十畝をとる故に商民ハ七
畝を公納とし周民ハ十畝を公納とす。或ハ井をなし或ハ
井法になさすといへとも。什一にハあらす。日本なとハ貢助徹
の中。いつれを用ゆべきや　云王代ハいまた及とらす。武家
の代と成ても。貢法を用ゆるなり。古の割乃強りを多
下まれにある代ままに皆十一の貢にハなされ。日本の土地
にハ。井田の法ハ用ひかたし。中國にても。日本の土地乃相應

あすてハ。皆貢法を用ゆる　問今の割ハ四分六分なり。四
分百姓とり。六分地頭とること如何。今日本にても。十一乃法を
用ひハ。大分小分によりて武士ハ一年もたらすして却て乱
の端となるへし。古とても。日本にハ行はれへしともおもはれ
ぬしかも　云四分六分にても。六分年貢となり。四分百姓
とることは云ハ。上田の水を入るる田となり。水をたくはへ畠となる。
麦作等よりも多出来て。田麦にハ年貢なし。不足なきゆへ。
中田ハ六分百姓取。四分年貢となる。下田ハ十分にて二年
年貢となりて八斗百姓とるそハ。立かけそのなり。むかしは
中田ハ。一年地をやすみて作せしかハ。上田のおよそ實にハ及ハす下
田ハ二年やすめて作されん。上田の三ばいにも及ハさる。故に中下
ハ地をやすめて多し。かくて十分にて年貢にさくけなり。

不易の上田ハ。京村の東ちまの北乃ごとし。今ハ世の勢ひ。
十一の法ハおこなひもよろしからねども。日本を今ひとつにハたゞ
かうあろう。むかしハ農と兵と一ツにてこれを。軍役ふ民
間より出すゆゑ武士ハいよいよ貧しくなりて。百
いの如くに堕下（おち）ぶ。百姓をめしかゝへ召つかひて。十ら一を出すゆゑ。別に士を扶
持する知行そいらぬなり。巻倹質素にして。驕
奢をけしハいふもさらなり。十一ゐてみちこれう今ハ士と
民とこゝろわく。士を上より扶持ゆへ。知行とりひ
扶持切米といひ多いるなり。十一のうハ二三ツうても不足。農ハ
てこうするほかよく成らう。故に農兵の風ふそく

成ハ。一旦おこなひうしなひても。君を古も民もこまれくるゆ
て。そこくハ地方にたりて。私せこなひもやし。
同農兵ハ一ツにてものなり。百ゆふ。戦
つくハ。ものよろしきゆゑ。永久行ふ。今の武士ハ
事なり。ゑとも九今の武士ハ。同心仕ふ者ゆゑ。一度
ハ農にかへして。道許ふまじき事。学ハ明ふなり。
ある人ハ。人君ふ人材をよく。ふ明ふなり。
なり。尚ふ民ハ一同ふ。彼士のごとくなるをよろこ
やまとよろこぶ。百ゆゑ。ふ民のごとくなるをよろこぶ。
ゆゑ。二郡も其法行ふまじ。民ゆゑゆゑ。
統をつゞく。絶できる。
久ふ。其後ふ下ふ法ハふとへし。

同代く賢君出てそ。ゟ拾ふを感へくれへ。一代の乃ち
よ。処切ゟ紀事ハ学ゟ来ゟ。云誰の乙ゟあつて。道時ゟり
ゟへし。相継て切をそゟ。ゟ人出ゟゟの也。学ゟ校の政ゟよ
けまハ。絶君ハ此事ゟよ紀人ゟあつ。たま古ゟもて。ゟ孫ゟます
くよく成ゟのゟり　同甚法ハいく　云日本の今乃
時不在ゟり。ゟる重ゟりさの今も。時よゟふゟあ比時よ南
てハなゟとへ。ゟくひゟ。

集義外書卷五終

一心友同曰。世間の儒者乃。君子ハ代儒ゟあり。ゟ乃事ハ今
今時。ん学者。格法者。朱学王学陸学なゟ。て。ゟくゟ
ゟれくゟり。何ゟ是ゟゟくゟゟ。答曰三皇五
帝。三王乃御代ゟ。儒者ゟ名ゟ知て
周室ゟ出ゟゟりゟゟ。儒者ゟ云者ハゟ紀事
ゟゟゟ。周室ゟゟゟ後世乃儒ゟ云ゟ士君子乃重職
ゟ比ゟゟ。卿宰ゟゟゟ。道藝ゟ教ゟ者ゟゟゟ。道
ゟそ。六藝ゟ教ゟ乃師ゟ儒ゟゟ。士君子ゟゟゟ。今日本
ゟそいゟ。武士ハ武道ゟ達ゟ人乃。生付仁愛ゟ心歌ゟ
乃ゟゟん。此人ゟ禮樂文章ゟゟ。古乃士君子ゟゟゟ。

秦の代より。天下乱世なる事久し。士君子皆戎事ならでは
かくのごとくいとなみなく無学は成り立ちがたくそれで。儒の民間ふさぐ。甚だ儒者ほど
しまれよ。そこで儒者ほど。それで古の事跡
うのく他人をものも。世小官れ儒の。なりく。鳥なき里
の蝙蝠やらんまく。亜聖賢の
事跡。琴学のくらいさく。亜人の道統。儒道くの
日おれ武国色。世治くくの
て。藝文の武道を指南
離色。治と共のく。日なけ
なりぬ。兵乱やむく後は
成く。文学して。遊説
等ノ人倫ノ外ニ居ク儒者ト名ケク。道学ト如キ庶業ニ
ヤリ。ハヤ異端遊民ノ始ナリ。モト孔子ノ遊家ノ後ヨ
ヌ。佛氏ノ流波ナル。相率テ道学ト称テ。世ヲ欺ク遊民
多クナリヌ。異端ハ仙佛ノ徒ノミカハラズ。儒者其ナル
博文ノ儒者モ。一向ニ一役ヨリ下ツ。国用ト達ヲ
ナレド。遊民ヨリハ。実好
ノ師儒ノヤウニ。小人ノ儒ナレドモ古
名実ヲ失シ。遊民也。実踐者。格法ナル朱学王学陰学ナド
ナクテ。文儒ノ用ヲ達ヲ。或ハ文学ヲ
ナク。人ヨリ尊ト事ヲ。或ハ云儒者ヲ
学ヲ任トシテ。何ノ役儀ヲナスヲノヲヨソ
ノ五倫ト離ル。五等ト出仕ノ本作ヲ

小能ひ之を施力めく裏日紙遠ることの如くなり。竟
辞故学びて。湯武孔丘の大変まあひ治る。各
裏私を常と心得ることを
をなし。聖賢人なり。孔丘の後。孔丘の如
ことも。皆吳獨よく入面し。顔子閔子冉子
なることも。日本此士乃ち
あって。程子をも家業わり。孔聖をも大徳
もって人の家長と称り。文武とおさ
給りさ。通学と称産業とものうれし。
方うち学く。禮楽を学び門人とつる
錄の御代ごふなる事
人わり。事成さん。是よりの
を説く。世成ることの如くなれ
ことも。外の似うう故よ。後世乃あやまり孔孟よ
八天吏なり。春秋を作為
つ。古なさ風ふれことを時乃変ふ
角ひの事さ招の。甚な
あやまりをなく也。
と云は。うく真なくし
なるう。時不位乃至善を
聖賢ん能担云ことをるざ
金さおくふあく。
あり。
養云。禮記ん

初は聖人の言也。是を以て家初の三十六字の也。其
きよりて下りて是れ儒称を用ゐる。曾
の衰に。孔子より多く後乃人のはを用ゐる。曾
孔子の對して作る服ハ。儒服と同じ人は。
衣と著ちり。長ちく宋まで也。章甫乃冠をかうむり
ちり。紳まで也。ちさりそれ学ハ博し。其服ハ縉よりて
りふ。紳ハ儒服と云ふ。是を以乃ち孔子ハ儒
者ハあるさなり。儒称の諸をあなどりなり。
多く聖人乃語録よりあるさなり今禮儀乃風ハ
ものゝ武士なり。武士ハ学問をる人多くハ。ふさ人あり
た出来へし。孝ハあるもの。文武二道とおさめくるゝ
とりれこなくハ。道ハ全く。道具なる事なり。文武と方

小有しあり人と士君子とをわかつ也　大樹諸侯大夫士ニ
あつまりて論ずる事乃理也。文道乃ニまわりあり
と道乃なき故なり。文道ハ天下四家と平治しる事也
と鎮め。賊を討。蛇蝎猛獣を駆逐するをいふなり。ふるに中古ちり武家
ちる武乃役者ハ文道乃役ふ。武ハ
ふる人ぐさる事なり。根なき武家武士ともいふ名ハあ
ぬ。ふくふかくひく田舎ニ野人ハ親しるさ者ハ
頂をて。剣をさゝ。ふさ是ちり。武功

小ふるく大身なる士は武事のつとめなり。官位ある
きくらく武士は守護をつとめ且つく女れもつとめ
れあり。武事と文事と兩ともに其人の器量によりて文武二ツ
乃至ひとつにてもつとめ小藝をもつとめ詩を作りと
もの者多し。文事と武事とは兩ともに武士の義ともいひつべし。
の義ともいひつべし。御馬くさ鉄砲なども
公武とそなえる者をあり。
むつかしきもあり。次や。四今
は勤官くさなどの類も。文官乃至は
勤御供奉行。軍法者なども
云ものもあれども。皆武士なり。古乃文官武官をふく
乃至~~。二ツともにあるべし。

士なり。兩ともに乃武士なり。役者くさをのそ。是
役ものを達とれを。外乃事ハ
是故に藝者よ。人くさまざまに
道具よ成くまざまに
やくく成くまざまにつかふ
一朋友同小笠原乃ものいひ
云ものも古風乃法なり。軍
まあるなり。多く軍乃次第。作法と化一多をとりなり。此
故よ軍礼とも。軍乃次第作法とも。甚上よ書乃名
將乃合戦の法をとけり。軍礼ハ大將ハ甚心よ軍法
乃勝負乃利もつ所をとりて
義理正成是也

一心友問。孟子ハ遊説にわたし給や。　曰世ハ次第に結構に成公
あらし。親乃功ハ半分なくても子乃代にハ位も身上も。
親よりよく成る者多し。末代乃法の後にあらそふ故に
されはこそ。聖徳あらく。無道乃時に出。古より下に生れて
孔子ハ尤もなく成給ふ。天地ありてこのかた始めて是ほどの世人
無位乃聖賢とて上に事をなし給ふ。因孔子ハ徳ありて謙さ
しられハ人乃気をもかなしむたりし子思の時ハさしや孔子
よりも劣りあり。孟子はなほさら人の為ひぬらし。さても孔
子乃法功の子思孟子にいたくあつかるも為になり。孟子を
まはしきころめ乃流人に。門乃色ひかさそとらひやうし本
さい屋うたらす所事かくもいと見て。道の行ふまし。不行ハ
ひかき奉るとさく思ひあひかねども。名もあらきされ々

人とりては寛一八さてく人乃上のくつしはく成る位大禄をうけて八
道乃行ハれさる所を恥せやむちやくと得ずして。諸侯乃賓
容と成りく周流しあへ利。後世乃遊説の者く同と同して
かく所為るハ。古乃れ孟子も。孔子よりもさきの後の世の実
やくとし人を説あり。孔子さ小友とも辞をふして本へ孫々と
五に等と出ある人は。孟子は嗚さしく官職なし。道学と説道
德と任して。世之俗人乃泥をにあひあふ所あり。後世乃
聲あれまりかこまりたるとも。孔孟は。天吏也無道乃時ハ
下に出る聖賢にて。天下乃大変とかし人ならず。今の大
大道乃常まそむきて。道と任せると云。我身乃不徳と志
とふ人にして我子ハ慈にのいとひて。薪物とひさげ人足
の駿馬あり。孟子ははきさく役と浮めへむきを

叶ふ今の通者と云ものも工商よをうくる人々おかえ
なうもとゞもとゞめうかゝくなり。こゝろ聖学の衆
人と成く所れう。仏とそしるハあや所也。道学の床道
奥一カもとうるゝ。世人を赤子と紙家を代翻うとたゞ
あるくも。醫者と成く。お祖形残るく出れく法橋法眼と
かうて。茶物よのう。釜ちうのさゝ座のでうそを。お家と処
く。位とうく後重とけく。長老と成く。る座よのでか
ふくひよ。そえをる座の道と任とうと云者と其
学文と降く。常れ者ありて其人々と母ふ人々多人
八。代官のる代かやうの事ありて八威内き人々多し
相とて工商うてあひものかちと世俗よそうくうく
うまでぼものの〳〵後といふ古よかう。世よあうひなくと

うれあうん者ハ。節ふを身分まうをよるまー代の大方ハ
みくのうさとの処をうやくハ身分の倍性かくうるもの
也。醫者ふ人々〳〵ハ。身分の倍性かくうるもの
次第々ふのかれよの事ハなけまうを。醫術よる
と不会。不婬戒とゐ処ハ。無よ先そを可ケり。仏主ハ酒肉
なうう人分のをのうをれ々身なく人々のえうひかうさうう分
へー。聖学ととかゝ。人倫となく人道々人々ふを肝要也
一志ある人の代官役とゐ成多ク同く云。今時ハ民間よ誰有
うとなうれーてもうる費へまー。代官ふうる。ゐ処ニ直
ひうく。世費とやゐんバ下ひうも免うく。一成を甚上下を
出来有へー。一成ある月。五分ふ百姓よとー包く。五分ハ上へ免
うてゐ代と。甚内と云く。下代ゐ座等よ治来文くをー

私曲なき様よと存ずる。いまだ修業そうろうに
て候。国中いろいろさまざまの事を成就せしめ
甚通よき及候ず。其人用と別よ合力そうろう筈と
済んだ様なく、ハ組頭ともの郡のまゝにさせなく候
そのうち候ず。其殿の身上唯今禄と人数と相叶そうろう甚
よき一両人そうろう人ぞ。其人用と別よ合力そうろう筈ぞ。
よそうむとみとも別よわるる有候ての事。ひとりよき
んどく書いを候ず。ひとりよきいく。そのよ入用さりの
なれど。外へ却て多を内そうろう様を。同そうろうれ
れよ申方え候ず。其情と筆そうろう様なうれぬも
のよ。同よ見えそうろうて其よと出ん事ハなうろうく候ず。其
半分そうろうを。さきよ立そうろう度更よ候ず。民ハ痛そう

筈そうろう。其上其殿の意趣ハ人をふく。一代そうろうをある
へきそう。代支替そうろう。其ハ。其ハ先乃よそうろう不そうろう
其外の事ハ世乃ふつうにふく候ず。所よ成候そうろう。
ハ。所よ成候そうろう。そのよ其殿乃代官不
当ず。後乃損なき様よ。方事分別あるへき事なり
同そうろうハふく候ずや。曰候ず其殿乃代官不当ず。
あると。一方石乃領よ。下代二人とふく候ず。其一人
そうろうをふくなろうふく候ずをハ。二人ふくを事
りうふく。ようなきと遣ふく。一人ふて其給分をかさ遣し。
石姓系そうろう私曲なき様よ。ふく屋あるべし。
其屋代官よを四人。若なそうろうれも。底取ふく今乃下
代乃給分ふくをそうろう。兎角そうろうへき。人乃入ふく

とあるを以てなり。毛鬼とは、
窮めらるゝにて百姓のなげくを
云ふなれど出さゞるとき、軍國水旱の憂ある備のへし
て物ごゝに有次第をとりて免とするを
云ふなり。よく進しめることを。何の用をも足さゞる
し。さりひろきを八方めぐりて天乃下をしろしめす
おほきみ、打續不作なりとも
を一人遂飢なきやうにし。其れる直よりく。一年とゞまり。
武士乃勝手よりのみさる多法よ又下乃わく下直になり
ぬるを武士多のみ望くすり切く。雖饑とも其人乃
そのものを幸なるあそとするの也。人乃
一心次第。司馬遷が。伯夷叔齊と。巢父と。許由と

書乃法道と不知なり。伯夷兄弟が海よりの
なる。野四とゆるり旦紂乃惡政とさけるとかんなり。周陽よ
うく多治。事八表乃義と裏乃義とありて。
そうなるあり。時乃義ありて。
無さるあり。中庸といふ山水を好み清よ遇あるを
のなり義なるよれ清きを。乃清よあるべし伯夷と日を
同しくせず。或帝乃臣稼をゆるさず山水を好み隠居ちし事なり
あり。表乃通よあるべし。孟子曰是至偏也。然れ
乃論なり。孟八天下乃男人あり。それ馬乃氣
よまれたく。表乃法をあり。氣力あるべし乃
かたうへくあるべし。古代乃等外人倫の

分へ過ざるものなり。然るに今の世に生れ
し人の如きは學ぶ所も學ぶ所も武士なれば武士
農工商と農工商乃ち武士の如くなり。其お作と
くに作らんとするなり。甚なるに至ては盗乃ち
乃改教よりおこる事なり。天下國家
とわ之を過ぐるものなり。其及ぼす所はあしく仕
うるに至る故よ氣力ある者を擇ぶ事とへり。然よ
大病度こやに出ず。もよりて右乃ごとくよ
ぬ且をうひれをと。大河をとうすべき船なる馬
しかく各ら且武士共作とあ心乃まゝにして後舟とうこと
き門、右のごとく人とト為をとうさ。なられ士大將うをわざと
きのをよおとをそくおうこをなき且ごとく川う

ぬるごとをしく山谷うもをそ働くに車ある時を假儀ごとく
うに人よ借をうる而ぐを徳ごとく一國亦ハ一郡
ハ多く多月乃ちとおる而ごとくに農工商乃業なるとくか
ふうに病氣あして人とく裂うとうしおごとよ云
礼をあ且ごと多く山中ハ一束石と成へなくうなり身の
不月をよく知うるあのを世よ盡なくうを害おしざると
又人不為の義也辭由をよ賢たれを要ごとおうるへなお
まなるよう。一人知れ乃故あり。二度物仗ともうしうさあ
よ一の狙と為うをうう

一心友同朱子ハ賢人う經傳乃註よをさくハ右今一人乃名人也古人のおよ叶
ありとし叶をはあるごとくハ先生を物学乃ごとくした

仁よりしく義理の
人の恩となろう。周王
あり名大将也又賢人
もさまへ自反横獨
てんと問ふ向ふ
ひそろふて経傳
各別なるあると同
ひろてあいそ
一書八面
傳も皆我
ふく後書八周
ことくく

月ろ事をなす
面ふ書ろ第一ろ見
章句と分過
朱子我を
ふやう小是
故よ聖経八註
てしまふ。朱子
かろも重ろ仁
よ他ふ事あり
あり又重ろ罪人
同二ろふ天理
と殺して天下

賢人ハいつれもさかしなり　間貴老ともに王子乃学者とか
者あり　曰志ありて世ニ秀弁せまさて同学あんとんし文才か
く文字乏しく氣力虚たるゆへ時ハ不幸あしく学あるべく
とおもふ毎周乃事ニ精神を労し病氣ニ臥く後二十二
歳の時初て四書乃文字覺をわかちぬ。集註ニ依て四書経
学ひさ九四乃七月より始ニ至りて中江氏ニ逢て是より
事とし帰て又九月ニ至り始ニ至りて来年乃四月まで
居て孝経大学中庸論孟入ぬ。それより後ハ父およひ
従へと求めんさめに江戸ニ行き一ハ東江州乃人遠方ニ從
遊ハ母弟ニ妹ともさわりまれる京都ニ至る両江州
よも行おもひかく家そさかしく貧ふく独学こゝろざし立
年なりき志あし所人ハ母弟妹乃ありともし饑饉乃餓死

に入らんおもふとおもひしに。此人を求めんとしむ其比中江
氏王子乃書を讀んとしく。良知乃旨とよろこび聞に及び京
さく行まかれたまへにより太よん法乃力とゆかり。朝夕
一所ニと学傍筆ニも学問志てある事を継志ある。書を
讀んとしてん法を称るおもし三年たちなれより継志の老
一友人粗知て尋しに。聖学あることを継き知れぬ文ニ稿
く志の者。五六人に及びり大ニ悦て披露せしかば甚
志り出来。風波たちりけとも終ひ失つひかと所老あつま
是ニなるとく。主人其是非を指してまさに考を世に名
とおもふ所乃禍。主人志乃出来ぬるもしかるに其時に
良知乃旨ニかなうとさ。江西も学ひ人ぞ者はあると以て良
知乃旨を披露せり随て志貫ならぬもの也。路寒要去

おくるりやそうひく。十百倍して王みの学のとゆきかう
り。世の人おそくおもふことをかく世かうへさうかい
發行をなくて中江氏死をたうさ。中江氏八生付く
氣質ふ毛の風あり。德業と備へある亦あるくかり
さ学ひは素熟ふく。異学みのいおをはうた。お年令
のひ多ふ多ーふは。学ふとを所よ知へさおあうふなり。
中江氏春生乃時ふ手を始ふて告翅学乃おおをも
なれふぼさ学者一人をなうふーよ。中江氏乃名
毎よりく。江西乃学者ハぼ乃実よ過ありさて十百倍
なるこは。ばいえとさふ大たり。予ふ見ふとを。人乃とみを。学
流乃実陽よろうれおあるとを見。註をもうそを。未書紙
をてく。聖経のくんれハ。朱子毛みたふ。聖経かとに

全うこれぃつまこを助ふ。乾霖と師かうて
おやまそうものハありくへふこれ。物乃とうて後八関東へを
ゆうた。病者とおくへふのふくへふ人乃ふおはぃむうて
乃ありやまうなも。学者問。儒佛乃別を、いまこ乃あそ
答曰輪廻とゆふといえとさふ大多ふ
答甚事ふ乃異皆世根本、う出。そ造化物廻なう
ふ。仏氏乃事皆なうふ。そふふ汝儒者ふとなし我
仏となりていえん　問儒佛氏寂滅為楽。万物滅ーふ
毎ふ毛と成仏ふとぃ我儒生ふ乃おは異也　曰教著成
解うおありお。階級ふ不滅ふ。万物除去うおれ仏と寂滅
為楽ふとぃ。同異又汝人乃性と付ふ多なうん書ふと
経ハまりくふ孫と絶とりく権ふとふとぃ。天通とりんこ庄。

そのもいうむ　曰むう〳〵死てまみうへはちん何幸ともいふへし
仏法の学ぶ事あるも心掛ふまゝ〳〵生れ出る間にて空中
ふれとうんるうみう〳〵。空中花なり。眼力の病よりて
生ず。菅田まわるも夜中ふ大なるうつりをみるがうち
氣病あり。ひとり地もひとつの物ふれる。夢もそうの事く
ありあり。夜ゆく後ろの来ふれるよふ紙ふうるなり。な
あまと思ひて後ろの来ふれるよふ紙ふうるなり。な
後生輪廻なり。併法ふよりて後生輪廻となるをのり仏
ふあり。むう〳〵或僧幽霊と見ふ曰後生をふるをの
をのちりと心う〳〵後生乃祝ふまりて。幽霊と来ふる事
と見分ちり奇特なり。　同怨霊幽霊なとの多同く
あるへいく。曰万〳〵人ふよそ人信ふくしまそ人ふのうなるなる事

来ふるのうふく〳〵ふよそのふ後生ふ仏法ふよりまみうへは皆沉魂浮鰓
ふ水ふあまた。数あり〳〵ふ滅をむう〳〵乃名僧乃天狗と
成ふるを。数ありて皆滅しふ〳〵ふ天性をまうぬふのふ馬
数と同〳〵生滅と。其内執着ゆうふ者。真死とはさ
多者。右のふく沉魂浮鰓乃更ふの者あり。実ふのふ
あり〳〵人乃ふふ人乃歌ある間の事也。真ふ者ふ歌色声
臭れし。何ふ生死ふ囚とふんや。幽明人鬼一貫なり。内
天狗よりふ者ふ何ふを。玄学ふ文ありてふ慢無欲なる
者ふの沉魂浮鰓。天狗とふ者ふの故ふ着ふれ
中ふなりふ着ふ〳〵。近年乃出家ふ歌あり又る
慢ふふふふ力ふ天狗ふをなるふくあ

一朋友同日。何乃佐を宮人事をたまれくも。帝と書物紙よ
うそを。各別おそくなることいく。答曰人乃孫子も。多く
なるおそくつくなる。うそこあるものハ氣ふのうちのそうとの
も氣をさそうる故也。同とふそうとくあめ。其ハ多うふし。精
神心よおのまりて。形をのそ日う故なり。吉太乃。道せ不
達ちんなる事ハ。精神ちう故なろ。うそ見
ひくきおそて。んりとおうねねとうく。同とおそあめそ見
まで。そく彩く事也。儒ハのそく日。是非たふ著をの日ふ
は悪生ん出家多る者。出家とうと思ふへ。も著なり。
それうとうく。爭を物我もせるなり。答曰志うり。我
も亜学とそれとも。儒よ著せん。倍学ふれやしきをを
んてうり。朱学ふ王学等乃貴人をまうとうく元色き

と思ふ学れし天地の神道と大道と云。我国ふ日本乃水
ふふよ乃神道あるも。大道ちんなをまた。我国のうちれ
ハやひおそと得をうてうくハ神道とふ角
一心交同。そこ乃人も。貴老乃細み中ふをある色きふ
乃身よ乃人なり。彼うり来る文乃。うやくおそさハたうる
老うも同し松ようふくしきハ過るやうん。日ふ
人よおそく。引よ故ある史り乱。大体乃朋友也。天他国ふ
人なり。武士ふ月なうるもうかし。同しふよ事へ
くハ。次事乃あくあれは。其分ふおそうふそさふ。我
組よと。他乃組よとハをそる異方る神義あり。他国の人
よ射しそる其身上乃文かと存色くん。同貴老他国ふ
永老へハ。状乃文うやくくおそくまん。他国ふ人よそふて

ゐのるなり〳〵くは。小身乃ち
多きよは人多し。天の命也。天乃命数多人が
ハさ〳〵むや。是我分と存をも也。他国乃人。我組みをも有へ
きなとの小身ゑ人の我とうやまハるくをも。此んたるくし。た
れぞとて。此方より具うやまひと受取そふあ〳〵ひとゑ又士
乃義也。彼はゐよきてぐひ。我ハ義とあをも義ゐまよ賓を
とをもう
一心友同。うこ乃人を小身なれこと他国の人也。そうめかこうり
来る文雅。うやくしくうるうひ。貴光うりれ返状。同玉乃他の組み
方と乃文よ。おまさ私なんりもろ。彼うを今ハ文雅もこいまと
てゐいたる故にて作るや。日かの人を他乃うこ歌。大和の
朋友うくをれし。愚よんの御をさうをも求めまき。

おれうと愚病若うちうくゐ人は両うるうるそだ
従来の書筒とあこうのりゐまを思とく益と得うとうう
ちれを愚よ心術と求るこうり。此かこ所へうこれ。吹や。凡人
同じ花ようやくしくとべき事ゑ。道理れうる形なしあの人
人式の求のおいとうのこうり。愚う文のうやくしうねこて
かをうりを初乃文雅と形くく。同輩れなくまおうへかの
人の義とちくゐ徳と姫月ざうなるも義を宜なり。財本位
はうるうきまる我ちる也。天命の朋友こもわこ。多一乃故
わう通理となこをかへ義とちくするあり。愚う書にうわく。
善とおうりとうう恩とちまぜ方れ文乃すさくくうやくし
うぬとこぐめく。文雅おおゐ徳をいの月ばうとうまる

より後世人に對して、たとへ世事をしらずとも、數年學問に志ざし、無
為なる奇特なる事は多人なれども、無く其奇特のかぎりして
終るべし。大なる事あるべからず。
一心友問、若こ乃人を市井の中より撰びて、平士乃武士にまさる
ら撰ばれ給ふに、貴老懇懃に稽をなしたまふとは
何ぞや。彼に問尋給ふも只一藝なり。何も一藝乃師人に劣
乃ごとくならんや。曰、かれも市井より出たりといへ共、武家乃禄
をはむ。藤人乃官にある人なり。其上大祢乃如人にもまさり
大祢乃まじはりをもなしたれば、乃人に求学すべき事ありて、愚
方よりまねきぬるなり。人は一字をも問学するに、我を首
しさしもなしまとゐるべし。又は師をゆびをまし、仍て志ざ
ひ問べし。無ひかまへても、此方へ来れなりとも、師乃義て

くなれば、ごとくもしべからず。況や彼をも又、なかの士庶乃分をしらん
まやお敬せり。
一心友問、関内侯乃貴老への文称をみるに、敬せ給ふあり。貴
老は一藝の師とされ敬しまふ人へは、大道を学びまふ人をも
乃事也。貴老乃文称なるべし。只一座の礼、同学ならし
くとも称し分老をいふ。曰、愚も同士なり。彼人は内
侯なり。臣士と内侯と、其官位をのぞく更に附は、をのづから
貴賤乃分ありとも、相親をとるまといへども、ぞんぶ道徳の家を
のぞく。只をなしとどむるさへ、其本は人分のかぎれ天下にも
まれなる君なん人なり。故に尊ぶを天子のたえみとして、尊ぶとも、士
なりといへり。故に士は君子乃位なれども、天下乃大樹諸侯
乃本地なり。是故に古へ、天子乃直臣と、諸侯の陪臣

のたのひ（ゝ）ろひ（ゝ）也さるごろかの（ゝ）儒軍此中の交（ゝ）て（ゝ）年（ゝ）を（ゝ）ふ（ゝ）て（ゝ）そ（ゝ）ほ（ゝ）成
なそのまゝ（ゝ）ろひ（ゝ）もろ（ゝ）云。真（ゝ）直（ゝ）に（ゝ）陪（ゝ）臣（ゝ）と（ゝ）云（ゝ）。亜（ゝ）臣（ゝ）の（ゝ）尊（ゝ）称（ゝ）な（ゝ）れ（ゝ）ど（ゝ）も（ゝ）
陪（ゝ）乃（ゝ）ぜ（ゝ）ん（ゝ）よ（ゝ）も（ゝ）と（ゝ）ま（ゝ）ぎ（ゝ）ら（ゝ）ひ（ゝ）と（ゝ）ね（ゝ）ろ（ゝ）ひ（ゝ）た（ゝ）ろ（ゝ）ま（ゝ）ぎ（ゝ）と（ゝ）今（ゝ）は（ゝ）と（ゝ）れ（ゝ）風
俗（ゝ）な（ゝ）ま（ゝ）ぎ（ゝ）ら（ゝ）ひ（ゝ）公（ゝ）用（ゝ）乃（ゝ）交（ゝ）ま（ゝ）は（ゝ）教（ゝ）く（ゝ）ゑ（ゝ）ろ（ゝ）ま（ゝ）ぎ（ゝ）と（ゝ）れ（ゝ）。今（ゝ）は（ゝ）と（ゝ）れ（ゝ）交（ゝ）も
各別乃事たり。我有徳よ（ゝ）わ（ゝ）ろ（ゝ）ま（ゝ）事（ゝ）ね（ゝ）。志（ゝ）ろ（ゝ）ま（ゝ）事（ゝ）わ（ゝ）
そ（ゝ）て（ゝ）。愚（ゝ）ま（ゝ）道（ゝ）と（ゝ）求（ゝ）ぬ（ゝ）人（ゝ）な（ゝ）ど（ゝ）。我（ゝ）を（ゝ）又
道法乃交（ゝ）ま（ゝ）て（ゝ）。公（ゝ）用（ゝ）乃（ゝ）か（ゝ）ら（ゝ）ぬ（ゝ）わ（ゝ）な（ゝ）れ（ゝ）ど（ゝ）。亜（ゝ）ろ（ゝ）ひ（ゝ）ふ
わ（ゝ）ろ（ゝ）ひ（ゝ）。亜（ゝ）献（ゝ）ま（ゝ）交（ゝ）ま（ゝ）人（ゝ）ろ（ゝ）ま（ゝ）ぎ（ゝ）ら（ゝ）ひ（ゝ）。己（ゝ）ろ（ゝ）富（ゝ）貴（ゝ）と（ゝ）さ（ゝ）ま（ゝ）れ（ゝ）
同（ゝ）宰（ゝ）乃（ゝ）お（ゝ）く（ゝ）し（ゝ）て（ゝ）交（ゝ）ま（ゝ）ぬ（ゝ）ろ（ゝ）ひ（ゝ）。人（ゝ）乃（ゝ）志（ゝ）ま（ゝ）を（ゝ）献（ゝ）ま（ゝ）ぬ（ゝ）ろ（ゝ）ひ（ゝ）。富（ゝ）貴（ゝ）乃（ゝ）
人（ゝ）交（ゝ）。己（ゝ）ろ（ゝ）云（ゝ）伝（ゝ）を（ゝ）志（ゝ）ま（ゝ）ぬ（ゝ）ろ（ゝ）ひ（ゝ）。古（ゝ）乃（ゝ）道（ゝ）ね（ゝ）ろ（ゝ）ひ（ゝ）。今（ゝ）れ（ゝ）
世（ゝ）の（ゝ）風（ゝ）俗（ゝ）。く（ゝ）れ（ゝ）ま（ゝ）く（ゝ）乃（ゝ）義（ゝ）と（ゝ）も（ゝ）く（ゝ）さ（ゝ）れ（ゝ）ば（ゝ）遠（ゝ）ま（ゝ）し（ゝ）て（ゝ）。い（ゝ）ま（ゝ）す（ゝ）ぐ（ゝ）
内（ゝ）度（ゝ）と（ゝ）敬（ゝ）も（ゝ）る（ゝ）事（ゝ）。外（ゝ）世（ゝ）ま（ゝ）ぎ（ゝ）ら（ゝ）ひ（ゝ）の（ゝ）ろ（ゝ）ま（ゝ）ぎ（ゝ）ら（ゝ）ひ（ゝ）の（ゝ）ろ（ゝ）と（ゝ）な（ゝ）ら（ゝ）ま（ゝ）く（ゝ）。志（ゝ）ろ（ゝ）ろ

小いまぐをれるこいつもをれへ士乃天爵をもろ（ゝ）ひ（ゝ）なとわをれ
毎（ゝ）ろ（ゝ）の故也もり（ゝ）ろ（ゝ）ひ（ゝ）ろ（ゝ）ま（ゝ）か（ゝ）ら（ゝ）ろ（ゝ）ひ（ゝ）。三（ゝ）公（ゝ）乃（ゝ）職（ゝ）ま（ゝ）ね（ゝ）ろ（ゝ）ひ（ゝ）ろ（ゝ）ま（ゝ）ぎ（ゝ）ら（ゝ）ひ（ゝ）人
愚（ゝ）ろ（ゝ）ま（ゝ）屋（ゝ）名（ゝ）と（ゝ）も（ゝ）ろ（ゝ）ま（ゝ）く（ゝ）め（ゝ）さ（ゝ）れ（ゝ）。衰（ゝ）脳（ゝ）わ（ゝ）ろ（ゝ）ひ（ゝ）ろ（ゝ）ま（ゝ）ぎ（ゝ）ら（ゝ）ひ（ゝ）を（ゝ）ろ（ゝ）ろ（ゝ）ま（ゝ）ぎ（ゝ）ら（ゝ）ひ（ゝ）を（ゝ）
ろ（ゝ）ろ（ゝ）ま（ゝ）ぎ（ゝ）ら（ゝ）ひ（ゝ）ろ（ゝ）ま（ゝ）ぎ（ゝ）ら（ゝ）ひ（ゝ）。朝（ゝ）夕（ゝ）れ（ゝ）市（ゝ）と（ゝ）見（ゝ）そ（ゝ）ろ（ゝ）ひ（ゝ）ぞ（ゝ）後
ろ（ゝ）ひ（ゝ）策（ゝ）出（ゝ）ぬ（ゝ）。予（ゝ）辞（ゝ）し（ゝ）く（ゝ）次（ゝ）乃（ゝ）間（ゝ）よ（ゝ）。志（ゝ）ろ（ゝ）く（ゝ）志（ゝ）ろ（ゝ）く（ゝ）入（ゝ）角（ゝ）と（ゝ）ば
真（ゝ）海（ゝ）く（ゝ）置（ゝ）く（ゝ）。飲（ゝ）人（ゝ）の（ゝ）。（ゝ）関（ゝ）門（ゝ）候（ゝ）乃（ゝ）ま（ゝ）ぎ（ゝ）ら（ゝ）ひ（ゝ）く（ゝ）わ（ゝ）ろ（ゝ）ふ（ゝ）る
名（ゝ）く（ゝ）予（ゝ）ゆ（ゝ）つ（ゝ）り（ゝ）の（ゝ）ひ（ゝ）さ（ゝ）。其（ゝ）間（ゝ）よ（ゝ）関（ゝ）門（ゝ）候（ゝ）ぬ（ゝ）ま（ゝ）ぎ（ゝ）く（ゝ）う（ゝ）の（ゝ）へ
た（ゝ）。次（ゝ）乃（ゝ）名（ゝ）ま（ゝ）く（ゝ）と（ゝ）も（ゝ）と（ゝ）り（ゝ）ま（ゝ）ぎ（ゝ）ら（ゝ）ひ（ゝ）ぞ（ゝ）。予（ゝ）ろ（ゝ）帰（ゝ）ろ（ゝ）ひ（ゝ）ま（ゝ）は（ゝ）。玄（ゝ）関（ゝ）ま（ゝ）て（ゝ）を
く（ゝ）り（ゝ）ま（ゝ）ろ（ゝ）。下（ゝ）ぬ（ゝ）ね（ゝ）ろ（ゝ）く（ゝ）ま（ゝ）ぎ（ゝ）ら（ゝ）ひ（ゝ）。名（ゝ）を（ゝ）よ（ゝ）ひ（ゝ）ま（ゝ）ろ（ゝ）。殿（ゝ）と（ゝ）ね（ゝ）
ぎ（ゝ）ら（ゝ）ひ（ゝ）ろ（ゝ）ま（ゝ）ぎ（ゝ）ら（ゝ）ひ（ゝ）。士（ゝ）乃（ゝ）な（ゝ）と（ゝ）
ろ（ゝ）ま（ゝ）ぬ（ゝ）。旦（ゝ）那（ゝ）の（ゝ）義（ゝ）を（ゝ）も（ゝ）ろ（ゝ）ひ（ゝ）な（ゝ）ど（ゝ）も（ゝ）。士（ゝ）乃（ゝ）な（ゝ）と
公（ゝ）用（ゝ）と（ゝ）ね（ゝ）ぎ（ゝ）ら（ゝ）ひ（ゝ）ま（ゝ）ぎ（ゝ）ら（ゝ）ひ（ゝ）。愚（ゝ）ま（ゝ）誌（ゝ）侯（ゝ）乃（ゝ）陪（ゝ）臣（ゝ）也（ゝ）。

立ちかたり。同座よ食飲をくさ礼なり。世乃男のうよわって各別乃義あるとく。来まるらのそれぞ其おとそうくはって乃賓客とく又食飲乃客ふあくされる。あく被義のこうやくもってをくれーか兆をたく洪河よあこうりて。予をおこまとこいよ人かうんさ。三公ふかくのごとく。況や他乃関内侯とや。もうれとも法とそるひ。貴とそうよは。其義一ありう貴人とそふものなり。徳とそうよは。天と楽こ予不法たれとも。法あるとも。て貴人乃そうひのふは。そ人乃法かりそ。予まとかこうて。ア乃ごとくそ。ほうりとくん八。其乃公乃。貴を受て色りそへ相ゆ法りとく同事乃そうそれとも。貴人又予と敬ー給あるそ。法をもとひ。道を受とくく。予と意情ふのよとくぐ

ほとうり死。給とともこれうれ貴とさーくさみ予と陪乃ひーらひよ志のくり。君う大神の徒老年とふくく来ーけおり。そくく頼さーおとく予乃ふとおりくなーのふと。時の宜とまこうり給乃席とたん用ーさ示文の急切よあとび。大切うまる事あるべさ人ふーぼとうりくこと重てゆるず

一心友同。倍儒とつとも。聖賢乃是道とふうび。なを其門。敬とくおう。曰予うまるうおとー尋同うくう其ふとう慇懃勉ふとべー。其日ア乃ふうおとー同公候伯子男九位乃人ふ。倍儒とは。いくこれ志ひのべさや。日うれる文学とうとく産業とー。身上ふあり作ー共乃ふ一万石乃上乃歴くふ。是非とふ百代。技術人とふ名うん

乃まことなり。文学の務粗疎にして孫乃ち下われも文学のようにて孫とこむ事ハ一なりとされど我ともさ道理乃ものなり。世乃中ハ賢者乃名聞よりハ富貴乃名聞をこのミ多くさ。学ハさ乃ことく老乃門にされど学ハ数多乃物と雖ども問ふ人乃稀なる也。筑後乃長なりき。貴老乃所上ハさの人どもにとくさは乃大名乃ごとく仕ハ階乃位乃ごとくさ。日乃ごとく奉公して他乃ことをとらざるごとくさ。他の諸侯よりハ学ハさ乃ごとくさ。他の諸侯よりハ学ハさ乃ごとくさ。他乃人乃ごとくさ。況や道学乃事をとふくさ公方ようをこれ乃ごとくさ。

なをれるごとくさ。乃ち志とふかうをびをこ公方よ御志乃中乃野人なるごとくさ。道学乃事をとふくめこれ乃ごとくさ。況や

一人文問ふ曰。志ありて貴老よ御奉公申ハ他ごとくさ。

あるさ。世者ども老ハ学ハ老乃ごとくさ。

門乃神ハ学乃者ごとくさ。世中ハ文盲なる武士乃家風なり。さ乃故よ。我ごとくを出ることをそ。

分ごとくさ。愚ハ学者ごとくさ不真実乃ごとくさ。

たる乃心ハよハ愚ハ学問故なり。人軟と誠あるごとくさ。

とう。同学ハ武士乃かくのごとうかわりたる事と云ふ。農工商九ツ各其職ありそれぞれ適と行乃志をかくべき事なり。其ハ天乃わたくしなき公乃道なり。故ニ徳を知るものハ。もつとも才ハ有ても役儀ニハ着ハ明かりと云ふ。多くハ学ばざるを。其役儀を汚と多くハ学ばざるを。其弟を着ニする事なり。よつて今一ツの才を付ニて。其事ハ行ハれぬ。俗ニ云ふ。学ハ優ひて仕ふべし。仕ふハ優ひて学ぶべしと云ふ事ありて。人乃道を学ぶ事を。其習乃わるき衣裳と云ふて取除て。其人乃実を見ず。其才気と見ハ必ず其弊を生ずる事乃。用ゐさるあり。学ぶ者ハ

至言ニ従ふ事を。其文学乃衣裳ニ従ふ事なかれ。よく其乃着ずてハ。人乃実を見ず。武士乃官職ニ於ても。何事も成ニ従ひ。其乃命をうけ。其任ニ当て。同学乃人倫ニ於ても。其通ニ当て。泰通具乃学ありて。乃学ニ於ても。文武二通ずるを。今乃学ハ文ニ偏ず。学ぶ者ハ文武と兼ねて学ぶ事乃。賢ありて。愚ハ愚なりけりも成ニ従ふ。出家の学ハ寮乃振ハざるハ。武家乃風ニ従ふ。其あやまりなり。さて当て役儀ニ従ふ。其ひとしき世間なれば。武士ニ従ふ。其ひとしき技ありて。乃事ありて。愚ハ愚なりけりも成ニ従ふ。帝乃天子

の身なりし。後儀疎漏せしも恥しむなく。武士なりて。其の
ようなれは諸侯衆と志て所故なりば。其おやまかくハ学者
は気に入。道を改めて学ぶ。大に気におかしく作学者ハ。
務をに発れきん所なく。士君子の道と志り修し法志
られとも全く学者の非をもかくは愚の気力なくして附
の様ふ。ともやかなるの識もとは絶勝と侍して僻しれば
文武ともに。家風に心の○修りなきまゝ

集義外書巻六終

集義外書巻七

脱論四

一心友問。貴老のし路をし給りて。大簡なる人道の礼儀をと
られば。牛馬に同しかんとや者侍り　云。礼儀ハ人道務
なりて易簡なるものなり。是を易簡の道といふ。今の礼儀
を云しのハ多事多物なりや。多物ハ識とをれく滅く。
修を倹しきら。絶まてし絶は。人のれ大礼を失さはなり。
同易簡なりて大礼立へきすいかん　云。無位無官の士まむ
かれとく。烏帽子ひとられ。ちいさ刀の風俗となくハ。ばかり
て人の見の礼儀の形をと見ゆへし。然なれハ。倹約の法ハ
践して行はれへし。まひとれ君とら礼衣ハからずして。下々
ハ身度もあらめて同し物を用へし。今ハ礼衣なれ世人よ。

小神あまくろうくべ。そこのくるべしぐいれ扱をとれる。
こいう素材。色くれよりとあり。ちいさ力ひとれてそしかる
小力猟指大中小をくあり。礼俗をなくべ仏弊とのたくか」。
奢をねしことのもうほうすあさいた文をまるう放ち。軍陣
よのくちいさ力と手力くくなり。そよたうとくあり。人う
よるまよようて澄くれ。ます。国容軍容うめてる
くして治世くうん　同今のなめとうりんう　云い
ままうねう質をれよ文をなくこれは弊あるも　同を
質ハ行のそや　云実俗をなりて後。
礼俗ろくこべへ。なお勢のくん人あり故よ礼を与んとお
ん人ハ。を賛と基。そなお勢を来とへ　同いんて実
俗の風俗をちとへきや

云易簡ハ実後乃質也。春伯の

異国のくう行ひくく礼俗とおくく。芸国の夷と変とあるとえ」
行りて。却て衣冠をあきそ。かくときう夷の風俗よ如行ん
去ハ後をうひ行ってちう。先ともん人をを平馬よ同くをふを
ぶべきう。山村春伯衣冠をそこ礼俗を厳ふて。
夷を化ん行ん。人乃眼目と刺く。彼を中国の人といて
むのう。信と共ふて後教よ仁義をおく及すふ徳をおく行
ひ一放よ後代よありて。ハ中国の礼楽をうくく夷のいやき
風俗化あ。今の礼俗をうえ先をる悪ハ仏よ仁義のちりふし。
先と人面獣心こいへ。人乃人こる而ハ仁義あるをおく史。
礼式ハ仁義の質とかるえ文ちり。質と先をべきう。文を先ん
きう。絵のこは素ふをこれる。礼を後うこのこ而へ。質ハ忠
をそうひ。高ハ質式そひ周ハ文をそふ忠あるくく後よ質へおり。

質あつく後に文あり。質を失ひしより文ハ。其時に應ずるを用ふ
なり。太古ハ忠信あまり有く。文不足。文の不足ハ。人道乃
礼儀不備なり。たゞ信あるハ人なり。礼義の不足ハ。獣面なれ
いへども。故に後世乃文備の時に至りて。太古の風を行へる者
をバ人たりと生るに同じくきたのこゝろをし。中古ハ仁のみた
信あり。勇に礼義をも。人なり人面といふべし。周の盛世を至極
とし。三皇五帝三王と古ハ。同じき所ハ忠信なり。文質ハ時の
宜なり。今の時ハ。文太過を加へし質をするゆへ。文と易する
よすべき時なり。今の時に周の礼義をするものハ。仁義忠信
目に換して。人面獣心ともいふなり。今ハ又太古に復して。獣面人
心なるべきのこゝろ也　同世より古乃人ハ。獣面人心なり。今
乃人ハ。人面獣心なりといへるハ。太古よハ人の頭に角ありて生まれて。

牛頭に似たれども。心ハ仁義礼智信の徳全く備へり。今の人
ハ。形ハ全く人の体備りたれども。心ハ不仁不義不礼不智不
信なり。知あるといふことなり。今の時は礼義乃備りし時
ゆへ人面として。不備を獣面といふなりバ。めづらしく備りし礼
義と皆まとめる様にして。牛頭ハ同じといふ所に付て云
ならぬなり。古ハ太極造化の工いまだ始ならし故に。形に八
そなはらざる所ありて。人に獣の形有るもの有き。然ども
心にハ知仁勇の徳ありしなり。後世ハ鬼神の工化し
くなりて。形ハ人体全し。然ども世の風俗くだりて。心乃
知仁勇。人欲のためにくらまされぬ。是ハ禽獣にも劣れる也。
故に予云。太古の人ハ獣面人心なり。中古乃人ハ人面人心
なり。後世の人ハ。人面獣心なり。太古中古とくらぶれば

乃ち昔にハあらざりけり。今ハ世にあらざれ。教の功なき也。世る衰
ふるに及びて。氣力くじれ。財用くじれ。おのづから乏しきゆゑ。
偽多し。これを人面獸心といふ。上にハ礼義を以てをしへ。
下にハ刑罰を以て小僧ハ下。にげて實儀をもとむなり
て偽大なりん。今の世よ南く仁政を行なんと欲する人あらん
する小学校の教を以てし。人ごとに仁義を知しめんの世る
代々事の跡を滅して。易簡なるしめ。事をなしなし把編を。
貨宝を至らしく實義を守るとをへし。かくして後。人欲の偽
深くへして。ことひく始く。人心ゆゑに。天性全くなるへし。
とかくして後。人の氣力盛し。財用さかりなん。氣力生し財
用さかりて礼義の則なき時ハ。又人欲おこるしとのなれば
時よ後に教るに礼樂を以てし。立るに人の織を以てし。云々

式を以とへし。志りまでも皆水土によるべきなり　問人儀と
ハ人儀と云。曰衣服文章これなり。烏帽子ひたたれ。ちい
さ刀ハ。日本の水土によるの人儀也。始く人の体を定め。人の
の禽獸に異なる紀の文章なり。何をか式と云。曰時處位
に應ずる礼儀なり。物ハ次第に繰りやすくして。てゐるり
知り事ハ次第に多なりやすくして。乱るくにいたりぬ。故に
式を立て。恭敬の人もあることあさハ。不恭人も及ハさ
なるあさハれ。事易なる時ハ知やすし。物簡なる時ハ
なりやすし。文式ハ易簡の式を失はなり。しかりしき
るを作りなして。人に志ゆるにあられ。人儀ハ恭倹の則を
立んとなり。暴を畫にあられ。故に人儀式ハ治道の要
なり　問礼楽ハいかにして法と用べきや　云人儀式も

則礼なり。何事も唐より伝へきたる物なかりし。楽ハ春夏
秋冬土用の調あり。十二の律呂あり。十二月に配当す。天
地乃正音なり。今ハ三条三のうち物乃中につまびらか
にも。心のよりは耳に楽しむべし。正楽ハ、完味ハ、あはれなく来
の合ハなし。其々の用もなくなりまはし。甚面白きもの也。
そんな源ハさへておもしろけれど、礼楽なくては人にあらず。
治法にはあらねど、長久なるべからず。此理を知るべし。
何も礼義となりなば。人道と牛馬と同じくなる事を欲
せんや。我も日本の風にしたがひ。今のみだりに忘るし。我身の位
ところで実徳と云んと云ふれどもなり。政乃ことはりは事
の不明なるにも。何もあいかゝんは体いに偏なるに及ばん
一心友問。先志を以て政をし給はゞ仏法をもって退治

むや　云。徳はすこし不成して、事をとらんは、大臣に任ぐ。
事をけつるやうし。事を細かにおかし。其も不徳何
そ政を委ねきや。又何乃志をいふとすらあらん。学君
良相ありて最なり。古今ハ未聞。人情時変の愚見をいひ
且仁政のなを失んのく。仁政行はれ時ハ士ハ士乃時を得。庶
人ハ庶人乃時を得。出家ハ出家の時を得べく、各其なり
ゆくべし。何の退ることかあらんや。其盛衰ハ天也。
人のよくあきらかなるにあらねば、同じくみちらして繁昌
しうる仏者。よくみをもって、国天下ともに治るべし。治
らる亦難み治り　云。仏法の作法より其をしく治む
乃時をはかるとはいふべし。今ハ仏法を繁昌と悦び待る
ものハ。其婦と同じき礼儀なるべし。治法乃心を志れなき

もて。仏法破滅の時にあたりてハやさしけ。釈迦達磨をおしたて。今
の仏者をみんを侍るへし。其ハ何者そとやさしく。又我道を
王道也。其道ハ大道なり。大道ハ大路のごとし。仏法ハ其乃
小道ハ其中の小路のことし。異端の本とハ川流乃如し我道
ハ大海のことし。皆変じて帰すれば仏の本を化退るところす
ゆゑなん。防き退るハ同じ小道のことなり　同書又中江
氏読書の始末をしるし。世の学者。読書をすへく陽儒陰仏
とそ申すところ。何法仏性とかくへからずと申ハおやまりなり也。人の
中を理りすて侍り　云中江氏儒仏一致と見ゆるにお
らず。読書ハ婦人の為也。女ハとかく此文学を只。其上仏法
のことわりをしらず。此乃言語ましてハ通しがたし。此故に
おりつく仮なる所なりて。本心の善悪を知らんとれ。その

志ハ好むへし。其志ハとらへかたし。世人乃そしりは然るなり也。君子也るときハ
日月の蝕れのことくなれど。非ハ非とこそ改めらるゝなり。則中江氏
之志なり。我これをかさる事を好む。我か仏法を退べからずと云ハ。
彼を我か用ひざるなれば。それを世に有へき限ハあるまじきなり也。それ
をも退く。我道を行んには好みしかれバ。評密して彼も其次を察ま
しめよハ志なり　同程朱之退ち拂しハ非なるか　云これ其国乃
時所縁なれば。今我日本の時にて吾人乃縁なくハ退べからざるを
同。今仏者之法を守り。儒者仏法にて学ある仏にハ。天下皆よ
帰をよく成得るハ。仏法繁昌とへし。程子も嫌声見色
のことくこれをさけとハ。志しにしく其中に入るゝことのなるべき
云其時のもようと。今とは各別なり秦漢より後。聖人其
教乃人倫日用なるところへしとなる云とおもくおもひて。ゑ

常と世る孔佰のよれ拔く。淺をの乃理とい。廣き之る源
遠の乃理をい。哭学ましあつもの。
多い玉緯よ入ぬ。門な程よ
久しぬ。云九。人倫日用をそ。
氏い世の統そ。
佛玉い乃人而そあり。廃をの
商の氏。仏氏の佐も。
吾國そ。
移天玉ホ乃。大宗教も。後世を
よ成く。教も孔佰と九よ
ろ。一もの。周程より十方。
て。甚学ろ。

とい。も。陽そ。不安。人を向く
要多出すく時いそ。仏を自戒律をおて。害あ
古しけそ。大玉と日本い地
い仏玉のと基ひくと云九。勢
らい懈也。
の世よ語も。
ふ法弱あり。大富の時。初二い乾体よ居く。剛健あれ大進よ
そ。四ハ法柔あれも。よく剛法の陽とそむ。時乃始多。
者多い場ともく。法ろ時
ろ時も。人の剛と不失そ
場ともく。法ろ時い不仁
とめ人そ。真寒しそ。

こゝくちかゞうそれあゆゑのいたつて仁義をふりのそれをうくれ
一同心こゝろにして治平ちへいを求もとめ財用ざいようを理おさめ国こくを
利ゆたかにする也。民のあるを待也。民の民たるゆゑんは五穀あるを
うふ多きに事ふ。民力を紓ゆるめてこれを也。又穀のゆ
有徳のためのたゝえある代よ日ひ。舒ゆるめて長し。其民そのゆ
うふくを施ほどこす。力を除ぞくをいふ。さて世の日ひにそうりく
短し。其民そのうふくを豊ゆたかにする也。古今日ひを短かろ
宵ふけ夜よ深ふかし。君明うふ。民ものうふくを舒ゆるめ。礼義ハ富ゆたかより生し。盗賊は貧
窮きうより起おこる也。富ゆたかい寛ゆるやかなるよ
つて治まる。故ゆゑに聖人ハ力ちからを民のために
勧すゝめて後篇ごへんに云。王者ハ四海を家とし人を一妻子

くなる時は功あるに世ろの悪し。甚だしく衰微の間も止〳〵。もそて出る悪人多く敵さうんみち。加るに国務を以
ろの時は刑罰と厳とをくまなき。甚だしく彼ら努
てまことをきはく。甚だしく彼ら努
半て特元去ちの。そ云ふ功ありて易小云重
中の人乃敵ありて盛なる人の敵の神と止ろの時は易〳〵也今世
いまさ止〳〵きのふあり。そこを
乃初ハトよりそ孫なる子孫。国の剥ハ民よ
つ初る。民乃国家ろいこれ国の剥ろ招也。易云ふ附れ
地剥上以厚下安宅を是剥を止ふれたり君の民と附ハ
乃地こ附ろこと。地厚ければこと安〳〵すして
ろこけいふ。もろ〳〵ろ支剥ハ君ろ退き。小人ろの

低ろ小人ろ止むる時ハ民ハ猶安止ふ世中泰附ハ民ハ
剥を治。甚だよハ士剥を治も甚だよハ云ふ治
ハ天下に災害多くて。孫よ君を剥ろ治
ちろ。今の君士民よ次ろ
民ろ剥を引く次よハ己ろ身よ及ぼすと云ふ民の剥ハ世ろ
此ろ如くそ。民ろ剥ハ君ろ剥ろ治。
武士ろちんちろまろ。
おろ治ろものあり。そ仁君の剥ろ君のこころみて世を失
松ハ告別也要述ろくて失ふ者あり甚だ表ハこよあり
山ろ如くなり。一ろ
て。古ろ川谷よ広多ハ上ろ人乃富ろ多ろ人乃貧ろ
ろ云ふこと。中夏ろそ

一き柱をくゝと訪ふも仏事米の之重なる
をり〻柱をくゝと訪ふ事の之重なるまゝ〻のつきまるゆゑ。
唱宮乃つきまるてへ水とれ〻のまゝ仏事くゝ神氣うとく
氣のつまりて年をくゝから。古ふ
流よ八山もろ〻まく〻川深をとろ〻也。年法ゆよとい〻
山乃〻ろ〻もみ〻山。故よいつまへ法度よ地をこ毎ゝ云大
名ゝ大法へ封をれ有ゝの唱宮ありて仏事のゝ川とれうさ
ゝれて。天下ねゝの深をゆうまゝ民生を
出ゝし學才を起こ。ゝてとゝみ乃仁ゐをおをゝ。云
ゆふりて水出澤よあまる。神文へ純温の月をれて日てゝし
て多仏ゝのゝ。ゝ月へ苗代ゝれるをゝさる。晃天氣の不
ゝ地氣ゝくりて氣化乃ゆ。ゝ七月八天地の氣不交氣

仁の氣ふゝまる氣常ゝれ。ゝ二月八ゝ之と次田畠を耕しまゝ本
をやくしゝゝれてゝるゝ。神氣浪あり。ゝ次氣を通ゝ雷鳥
お助くゐ事。神氣の行あり。播別海の海ゝ行くゝ
教報乃ゝれ。ゝ乃ゝ之八神氣不及。播別法ゐゝまる起
ゝゝ之を以雷ゝ。播別八小豆ゐゝまる。
ゝ八法ゐ小豆ゐゝまる。
日てりてあゝく男ゝてゝ
ゝ。報ゝ乃精ゝ。表ゝ
て神氣うすまれく。雷風雲
うまる仏理をゐく。二ゐゝまるゝ。
年の公報の生業一万信と
ふゝまゝ。基暑ゝ法風

一。それてこさうしてもたいそう穀の減少勢一国中おおかたその減おおそかそのかつ一。いまいくらも貴の売世くれ出ずよくいくらも叶れを生ず去なけれ八方の人へきれ出し同じ乃ますするうかの西と同一事ゆえ大事ならず

くは六七月打回てうおをぴタ云いくらへ仏そや云湖の神氣にそれう故よ。別ハタ云ばそれう。事も湖あて近一。基望みよつてきくぶ。海ニタ。そ氣ありさまうう。法務局のことくも。そこ久保うさまうう。法務局のこときへ。多本ちけくとい神氣とこりう。事ゆえ大事ならず又今附物氣をうすくとい神氣とそれう故也。おニハ多志きうそも神氣のそすけみいい

つかくく神て神氣と換とることあり。私ニよハトおせさん水うまくく出とねなかるとうる西霧田島ニ入て毒とおれハ浦波ちくふおおきの本也。ニハ新ゆえそくふ一同ニを落ハ仁的乃おおしを。今ハくニそれそれ出ちそれそれそのくりまて。ゆくよた西まそゆうと。呉今人民大ニ迷惑とへ一。書ゆえ人の文母ニる仁ニおおめ。統をうしてでうしへき事とへ一。人の文母ニる仁ニおつくぶさハ大ける保一おるくく後行りくへ一む一日史書をうんくく叶れをいつ教蔵を浮く、毒ニ保事あり叶ねもスそんの話物付ニ保一心支司。ゆえの話物付ニ保て出ぐまて出国ちうニ行。或ハ川抜をおて。他を換。千或ハ北

乃提破扶救ケ爻ヨ乃ち去ハ何そや　云易云賢人左
下位先輔ヒ以動而有悔也しつつ。山賢人ハ才徳兼備
の君よりくにあり人呂矢ハ才徳あり。人云の君ばかり
きあり乃めうへ賢人乃知あんう。史云君の徳ま
ちるへき事のハ。水の出まる事へおよ任去くこれり。
川流大水のハの乃ちおとを水をとの毛民ありてハ委へそし
或ハ池の堤或ハ川堤をせんとそ尚。そ而おとハ治ちる
老人ハいすえある者ハ時ハ時くそ。そ様をそくそ実。又
信ありとそくお後一おのあるへく。ものなるへきやくし
ちる時ハ乃害ケくして唯国ありそ。元ハ動ふ安海也
ふのタまま事に於ける乃ハ動るの様と毒ヒ色
きうちる時ハちくちる事あくあり。ゆるりあり況

や国家の政道よをやくとや放ま普大事ハ向くそ此ふて
才知人情ハ下ハうハちるものとそうあるものあり。時世の人ハ
下向を取ます。放ま唯才ハ助ふるくそ。後ハ頼ま損ひ也
ま天下の大事多ちるとそ。知謀の出る如ハ三公九卿乃
知ある如そ。一ふりひろきも。偏方実ま乃人のあおれ此放
に政令いそ人情よりおこれ。そるく向ふるを甚人よりきよか
おりとくそ。ま乃ふるを甚人ハ時ふ唯ハ動ふ
平人へ知次ひろ甚ふりのハ下ハ居の賢ちる事元
は実へ乃あさとを地をへ陽くこととて達をし
上の令ハ下ハそうのそ事ハ附乃権威ま陽くいよ
ものなりとそ。其実へ地ま世ふおれるし他ふ教ま

小志經明之士を會せられそれとも
し堂に昇れば天下同心和親して已に愚人
人心あるとは。必ず天下の才をあつめて治事乃
功をおさめ。天下知徳ありて曠世重まれ一人の才よ
氣をそこなはんとつとむるの法あり。況君の法あり。況君の
功をうしなひ。美事兩の君長をうしなふ。而時世
後世ともの笑ひ是程の愚なし。治化海よなでうか
くるとも。今名万歳よあらんや。名を求めされども
まも名を求めざるのそれ乃名あり。こ
宜名 程よ。史以一人之身 天下之廣若區々自
王豈能周於万事故自任其知任其能取

天下之賢仁若下之聰明則先所不周兵不用任其
其知大兵弄其能人の心のく。其招
の老人なく人の心のく。其招
招なく 同志くへ同きをもとめ。志
きをもとめく和して出来よるよりハ何のそや 云をゆる
をる人なるべし故なり。美舜の知も物よあまねからず
ともあまねきるを知く。舜禹の治のく。若
人を生れるおおし。舜よ舜ひ禹よ禹ひ。若人多うら
しなん。今も若をゆるをく人あらハ。天下の若人才能あを
てかそのをうして

一心友同。事亦法ともうらく結ぶ。法度をおよそい。
ともる時きと人ありハ。法度ハ大体いうやうもあうらく結

るや　云法度の小人乃名を戒め。正人の名を
書とくて夏の雷雨乃こと〳〵。正人ハ深風をねむくおぼえ。悪
人ハ雷声を変て恐るゝかと。今時の法度ハ多ハ正人固
窮して小人ハ栄花の法度ありてくも。さるゆゑ
ハ堪忍をするのたりからて小人
とらへて刑罰もちくく小事よりの事ゆゑ。
もちぬるゆゑそ〳〵（さよ
御く。三日法度ありてくも。正人へ
も。古今人情のさゝれ
小説ハなせよ作へくも。私ハ
ゐれとも。事あるゆゑそ。
ひそもち居もへ乱風

天性固有し給ふ。其心を
不可也悪き事くかくへからざるなり
ふ物なり。禮儀作法人情あく。悪
のり。悪き事人悪きをつくろ
ひくをつまびらかにし則ち悪人の
かくとしておもてに悪をもつくろはざれば同じ
いつまでもあれハ云ハれ悪ハ露なし。人として悪ハ不
なり。不義ハ人ハ悪き事てもなし。人ハ
く善の悪ひてし給ふ事を
むくゆハをきハ云ふ事を
よ忠臣ハ。おのれのりき士也とおもふべく。大
に感悦し給ふなり。悪ハ

てくらゐ給ひぬ。人ハ
もとより人ハ仕合よく
ゆるハ。敬よく利を
義ハ人のおもり。学ハ測
重ひて給ふといふも。
俗の俗人ハ。敬よく
ひとり。俗の悪摩小説
きまりなし。実ハあるべき
男とやめく。摩を
それ小天性の美
多し。そうくへよかし
一句反問。國家小益ハ

ゆくいとゝ不開いふ云ゝ也。扨又
不開心ろ浄ろ簡ある人きろ
ハをろされぬよく修ろへきなり　云南世の才知ありそ
ひそ称ふをよく云ゝ也。云ふれとも人の云を用ゐきれまあり。
後世ハそのまゝ人の事ハ
はく古人もかくいひ。仏の系も
ぬるのなり。今の人後ろ人ろ
おり。死ー去人よハおくきなれ
人情の云あり。南世ともも。志同しく修する人にそうひ志
そうひ信をする人ハ不開。世の活乱ねこハ命なり。才学の
及ぬよあり。人生心徳あまこハ心病あり。病ねをとゝ。浦
をあけるをハ久ー。病の浦をすて。病をあけしろもの、

経ー、いめ人の云ふをもそろ病をあをそろ
時ー。流人ろるの罪を予ろ病なり。人天乃あるふ美
あるを。故よを奥城のふをおくこ。開拓にあるこれ
一句夜問敬ハ西邦よ指しこれ常ふ敬をんこする時へ。血氣
ろこよりて。ふくやうの云ふ。性独を仙
より　云元まより重人よ和ふ志実学ハ不く性
工夫あり。支敬ハ元れ徳なり。方地持敬あり。今ろ
るをいろ敬なれ時ハ方を加ふ。敬よ元ふの及ぬ
てハ云よ小人ふ敬あり。人ふ
のを小人といひ独を指しり
和れふ云ゝ。性独しいふを。人の元ふ云ろ時
ハ。元ろこよ云あり。云ろ已ひ云ろ和ふを指ろれハ元ふよ云

なくしてうるさく事みー　何独私を性とするをとれー
をもとゝ偏倚とうるさをもてねるまさんり　云必獨私
を性乃志。天とゝろく立れ云ふ居附ハ常小ゑかー云ふ
うも。文よ南くハ私をまじ　何独私よりうるさー。云と
うる西と行ひ。非さる支をうらくへ。ゑよかー則歌也。
事しくうるさりみやうじハ。神まのおいうく及ばうくまやだとへ
くうをけいことをほうこと。神うりをと一西をよひて
ハ。なれーしたうれて。いるまさいれ。故よう教うるこのハ。
大法のよりうるをて。おつの支ハ。ひうく
ケ紙をハ。労をして射よとまりぬ。公淑もかくのこと云と
とあうりや　云ふうり。云ふうり。云ふうり。
よほーこうふれて。まふの織よ。あーうるうるうん。格法

徳ゑ紙まーゆるうるへー。程子ハ敬より入。伯夷ハ清より入。柳下
恵ハ和より入る。和ハ不恭ありくうるさー。孟子ハ一ケう。賢の學うれ
ハ。先ず敬ありうるさー。孟子ハ先ず敬を説うるさくうる九。ゑよ
ふうくうるこのようう法ケ紙ハ。法の格法敬ゑの人乃及へ
きふおうる。仁義礼智ハ天下平うケや　云ふ盛徳
一心支向。いうれて篤恭うるくうる天下平うケや。恭ハ
のゑをいうり。黄帝堯舜衣裳をれくうる故あり篤恭ハし
うれくいうくうるへきや衣裳をれて天下平うる故ハ仁ケう。仁ハ天地我ゑ
。神ケう。故ゑ幽明死生ゑ。言物已
安楽恵服ケうして行ひ。玄ゑみて私ゑなくゑ服ゑみて

私慾なし。浩然の氣天地の間にふさかると。静なる時ハ虚明にして物なし。動く時ハ直にして理に當る。私なく貪るなき氣を得。其氣象とふるに篤恭にして天下平の道

集義外書卷七終